

計	一五、六・六	四、三・四
合計	二、九三・三	九、八六・四

第二節 換地設計

換地位置決定に關する件は大正十四年七月十七日土地區劃整理委員會に附議し、大正十四年七月二十二日より昭和二年七月九日迄十五回に亘り修正決議したるも、其の間四回位置一部變更案を附議し其の都度決議し、其の後更に四回に亘り變更案を提出し其の都度決議し、昭和四年八月十二日議了せり、換地面積決定に關する件は大正十五年五月二十二日に附議し、大正十五年五月二十二日より昭和二年七月九日迄十三回に亘り修正決議し、其の間七回面積一部變更案を提出し其の都度決議し、其の後四回に亘り換地面積一部變更案を提出し其の都度決議し、昭和四年八月十二日議了せり。

本地區は前述の如く一部追加編入したるを以て各種調査に相當の時日を要せるのみならず幹線第一號の新設によりて局部的の減歩大なるものあり、且本線は花柳街を貫通するが爲之が換地上困難を極め提案大に遅延したり、而して之が審議に付ても亦各種の問題頻出し木挽町方面の料理待合業者を木挽町八丁目遞信省用地跡の内九千七百七十三坪に飛換地したる爲め警視廳指定區域の變更を生じ、之が協議決定に長時日を要したる等換地位置及面積決定に關し相當遅延を來せり。

換地設計に因る宅地面積十四萬五千七百八十六坪二合七勺、公共用地面積十二萬八千六十坪七勺にして、宅地面積及公共用地面積が地區總面積に對する割合は宅地五割三分二厘、公共用地四割六分八厘なり、宅地の内借地面積は七萬六千四百七十六坪四合二勺にして其の宅地面積に對する割合は五割二分五厘なり、而して宅地が公共用地となりたる面積四萬三千二百七十九坪四勺、公共用地が宅地となりたる

面積一萬千三百三十一坪八合三勺、差引潰地面積三萬二千四百四十七坪二合一勺、減歩率一割八分七毛なり。  
整理前後に於ける土地の狀況を表示すれば左の如し。



換地設計に因る宅地面積十四萬五千七百八十六坪二合七勺、公共用地面積十二萬八千六百七十坪七勺にして、宅地面積及公共用地面積が地區總面積に對する割合は宅地五割三分二厘、公共用地四割六分八厘なり、宅地の内借地面積は七萬六千四百七十六坪四合二勺にして其の宅地面積に對する割合は五割二分五厘なり、而して宅地が公共用地となりたる面積四萬三千二百七十九坪四勺、公共用地が宅地となりたる

面積一萬千百三十一坪八合三勺、差引潰地面積三萬二千四百四十七坪二合一勺、減歩率一割八分七毛なり。

整理前後に於ける土地の狀況を表示すれば左の如し。

整理前後土地面積調

區分	整理前		整理後	
	面積	割合	面積	割合
總面積	二七三、八四六・三四 <sup>坪</sup>		二七三、八四六・三四 <sup>坪</sup>	
宅地面積	一七、九三三・四八 <sup>坪</sup>	〇・六五〇	一四、七六六・二七	〇・五三二
	内借地面積	八四、七二二・三〇	〇・四七四	七六、四六六・四二
公共用地面積	九五、九二二・八六 <sup>坪</sup>	〇・三五〇	二八、〇六〇・〇七	〇・四八八
	潰地面積	三一、一四七・三二 <sup>坪</sup>	〇・一八六六九八	
潰地面積の整理前宅地面積に對する割合				
潰地面積の整理前宅地面積の割合				
潰地面積の整理前宅地面積の割合				

備考 面積は實測面積なり但し整理前借地面積は申告に據る。

第二十二地區 甲 整地







三〇、〇九〇・七五二四、五六・五四二、二七・六四九〇、八七六、四三三、〇〇〇・九三三、〇七六・五〇
坪
一、五四二・五三九
坪
一、四二八・九
坪
一、二八、〇九〇・〇
坪

宅地が公共用地となりたる面積

街	幹線	補助線	區劃整理線	小計	河川運河	公園	共同物揚場	塘堤	溝渠	合計
	二〇、一七六・六	四、九一九・七二	二四、一四一・四	二、三三九、二四一・五二	二、三五三・三〇	一、五四二・五八	一、六九・空	一坪	一坪	四三、二七九・〇四

公共用地が宅地となりたる面積

街	國有	公有	民有	小計	河川運河	公園	共同物揚場	塘堤	溝渠	合計
	七、三四四・四五	一〇、一六八	二、五四〇・四	一〇、〇八六・二七	四六八・四五	一坪	二〇九・六	一坪	三六七・四三	二一、二三・八三

備考 各公共用地の整理前面積に「宅地が公共用地となりたる面積」を加へ、「公共用地が宅地となりたる面積」を減ずるも整理後面積に合致せざるは、公共用地間の用途變更を爲したるものあるに依る。

換地設計上地區を整理前八十六ブロック、整理後百九十九ブロックに分ち處理せしも、對照の便宜上九分區となせり、其の區域及分區別整理前後宅地潰地面積を表示すれば左の如し。



第二十二地區

甲 整地

六〇〇

分區別區域調

分區番號	區	域	區分番號	區	域
一	南水谷町、金六町、南八丁堀一丁目、新富町一丁目、同二丁目、同三丁目、同五丁目、同六丁目、木挽町一丁目の一部	木挽町二丁目、同一丁目の一部	六	築地一丁目、同二丁目の一部	
二	木挽町三丁目、同四丁目、采女町		七	築地三丁目、同二丁目の一部	
三	木挽町五丁目、同六丁目、同九丁目、同十丁目		八	南小田原町三丁目、同四丁目、南飯田町	
四	木挽町七丁目、同八丁目		九	南小田原町一丁目、同二丁目、南本郷町、上柳原町	

分區別整理前後宅地潰地面積調

分區番號	整理前面積	整理後面積	潰地面積	減歩率
一	一五、八九・三 <sup>坪</sup>	一一、一〇・四 <sup>坪</sup>	四、七〇・六 <sup>坪</sup>	〇・二九八
二	一五、七八・三〇	一九、一五・四八	六、五二・八二	〇・二五五
三	一五、二〇・二七	一一、二四・三六	三、八七・八一	〇・二五六
四	一七、二四・四七	一四、七八・三二	二、四六・一五	〇・二一七
五	一八、二八・五七	一五、六五・四二	二、六三・一六	〇・一四三

七 六

一七、七五九・七〇  
三〇、六四六・六一

一三、九四六・五〇  
一六、二九一・八五

三、八三二・一〇  
四、三五四・七六

〇・二二七  
〇・一四二

一、八九五・六九



二	一五、七九・七〇	一九、一五・四八	六、五二・八一	〇・二五
三	一五、二〇・二七	一一、四八・三六	三、八二・八一	〇・二五
四	一七、二四・四七	一四、七九・三二	二、四六・三五	〇・二七
五	一八、二八・五七	一五、六五・四二	二、六八・二六	〇・二四

六	二七、七九・七〇	一三、九四・五〇	三、八三・二〇	〇・二七
七	三〇、六六・六一	一六、二九・八五	四、三四・七六	〇・二四
八	一四、九四・五三	一三、〇八・八四	一、八九・六九	〇・二六
九	一一、四七・〇二	一〇、四九・二七	一、九六・七四	〇・二五
計	一七、三三・四八	一四、六六・二七	三、四七・三二	〇・二八

斯の如く分區間の減歩率區々にして最高は第一號分區の二割九分八厘、最低は第八號分區の一割二分六厘、地區平均減歩率は一割八分なり、換地設計上支障を生じたるが故に減歩調節の爲潰地充當用として宅地一萬四千三百三十四坪四合を買收し(第五章第一節潰地充當用買收地面積と差異あるは買收に際し實測面積に據りたるが故なり)且分區間に一萬四千四百二十五坪一合一勺の移出入を行ひたり、其の移出入關係を表示すれば左の如し。

分區間移出入面積調

移出分區	移入分區	一	二	三	四	五	六	七	八	九	計
一	坪	九三・四二	二〇一・〇〇	一四七・八八	七九・〇〇	一、九三・六二	一、三六・二八	八三・〇〇	六〇・〇〇	四、三七・七九	
二	坪				七九・〇〇	一、〇八・八一	七二・五三	八三・〇〇		三、八九・八三	
三	坪			一四七・八八	七九・〇〇	一、〇八・八一	七二・五三	八三・〇〇		二、〇七・七六	
四	坪				七九・〇〇	一、〇八・八一	七二・五三	八三・〇〇		一、九六・八〇	
五	坪				七九・〇〇	一、〇八・八一	七二・五三	八三・〇〇			
六	坪				七九・〇〇	一、〇八・八一	七二・五三	八三・〇〇			
七	坪				七九・〇〇	一、〇八・八一	七二・五三	八三・〇〇			
八	坪				七九・〇〇	一、〇八・八一	七二・五三	八三・〇〇			
九	坪				七九・〇〇	一、〇八・八一	七二・五三	八三・〇〇			
計	坪				七九・〇〇	一、〇八・八一	七二・五三	八三・〇〇			

第二十二地區 甲 整地



第二十二地區 甲 整地

計	五	六	七	八	九
九三・四					
三二・〇〇					
一八・八					
一、三六・七					
七、三二・四		八〇・九			
二、六二・四		五七・九			
八三・〇〇					
七四・〇〇	四六五・〇	二九・〇			
一四、四三・二	四六五・〇	七六・九	八〇・九		

六〇二

以上述べたる如く潰地充當用地を買収し且分區間に宅地の移出入を爲したる結果、各分區の減歩率に變更を來し、其の最高は第三號分區の一割三分二厘、其の最低は第五號分區の三分八厘となれり、而して本地區に於ける實際潰地面積は一萬七千九百七十坪五合に減少し其の減歩率は一割一厘に低下せり、左に分區別買収面積、移出入面積、實際潰地面積及減歩率を表示すべし。

分區別買収移出入實際潰地面積調

分區番號	整理前面積	買収面積	移出面積	移入面積	差引面積	整理後面積	實際潰地面積	減歩率
一	一五、八九・二 <sub>坪</sub>		四、三六・七 <sub>坪</sub>	九三・四 <sub>坪</sub>	二、三二・七 <sub>坪</sub>	一一、二〇・四 <sub>坪</sub>	一、一六二・三 <sub>坪</sub>	〇・〇〇
二	二五、七八・三〇		三、八九・八	二二・〇〇	三、〇四九・四七	一九、一五六・四八	二、八九二・九	〇・二二
三	一五、二〇・一七		二、〇七・七	一八・八	三、一四九・二九	一一、四八・三六	二、〇〇・九	〇・一三
四	一七、二四・四七	八〇・三	一、九六・八〇	一、六六・七三	一六、六八三・四七	一四、七八・二三	一、九〇五・三五	〇・二二
五	一八、二八・五七	九、七三・六八		七、二六・二四	一六、三七一・二三	一五、六七五・四一	六九五・七二	〇・〇八

七	二七、七五・七〇	二、七五・七	八八〇・九	二、六一・八四	二六、七九・七七	二三、九四六・五〇	二、八四三・七	〇・一〇
六	三〇、六六・六	五〇四・五	七六・九四	八二・〇〇	三〇、一六七・一六	二六、二九一・八五	三、八七五・三	〇・二六
五	一、三六・八一		七四・〇〇	一四、三六一・七二	一三、〇八・八四	一、二七三・八八	〇・〇八五	



第二十二地區 甲 整地

六〇三

合	九	八	七	六
計	一七、九三·八	二、四七七·〇	三〇、六六·六	二七、七五九·七〇
	一四、一七六·七	三〇〇·〇〇	一、三六六·八	二、七五〇·七
	一四、四三五·二	四六五·〇〇	七六·九四	八八〇·九
	一四、四三五·二		七四〇·〇〇	二、六六一·八四
	一三、七五七·七	二、七二二·〇	一四、三六一·七	二六、七九七·七
	一四、七六六·七	一〇、四九〇·二七	三、〇八八·八四	三、九四六·五〇
	一七、九七〇·五〇	一、三二二·七四	一、二七二·八八	二、八四三·二七
	〇·一〇一	〇·〇九八	〇·〇八五	〇·二六

五	四	三	二
一八、二八三·五七	一七、二四·四七	一五、二〇·一七	一五、七八·三
九、七三三·六	八〇·三		
	一、九六六·八〇	二、〇五七·六	三八九·八三
七、六一二·四	一、六六六·七三	一八六·八八	二二〇·〇〇
一六、三七二·三	一六、六八三·四七	三三、四九二·九	三三、〇四九·四七
一五、六七五·四一	一四、七八二·三	二二、四八三·六	一九、一五六·四八
六九五·七二	一、九〇五·三五	二、〇〇〇·九三	二、八九二·九
〇·〇三八	〇·一三一	〇·一三一	〇·一三一



## 第四章 土地の評價

### 第一節 整理前土地の評價

整理前路線價指數並土地各筆平均坪當指數に關する件は、大正十四年十一月九日土地區劃整理委員會に附議し、大正十五年四月六日及昭和四年十二月十八日の二回に修正決議せり。

本地區整理前の土地評價には路線價に對する與行價格百分率中甲及乙の兩率を適用したり、其の兩率適用の路線を擧ぐれば左の如し。

#### 第一 甲率適用路線

- 一 京橋川、櫻川河岸沿ひの路線
- 二 木挽町一丁目五番地先より新富町電車通に至る路線
- 三 紀伊之國橋東詰より新富町六丁目電車通に至る路線
- 四 豊玉橋東詰より龜井橋を過ぎ築地二丁目築地川岸に至る路線
- 五 朝日橋東詰より祝橋を経て備前橋西詰に至る路線
- 六 三原橋東詰より萬年橋を経て市電本願寺前停留場に至り左折し築地橋を経て櫻橋に至る電車通
- 七 木挽橋東詰より采女橋及小田原橋を経て南小田原町一丁目一番地先に至る路線
- 八 木挽町六丁目一番地先より同町築地川岸に至る路線
- 九 出雲橋東詰より木挽町八丁目築地川岸に至る路線
- 十 水谷橋東詰より三十間堀川に沿ひ南走して蓬萊橋に至る路線

- 十一 白魚橋南詰より南下して木挽町二丁目、三丁目を貫通し同町四丁目、五丁目、六丁目、七丁目

の各町界に沿ひ汐留川岸に至る路線

- 十二 采女町十八番地先電車通より南下して木挽町九丁目十一番地先に至る路線



- 七 木挽橋東詰より采女橋及小田原橋を経て南小田原町一丁目一番地先に至る路線
- 八 木挽町六丁目一番地先より同町築地川岸に至る路線
- 九 出雲橋東詰より木挽町八丁目築地川岸に至る路線
- 十 水谷橋東詰より三十間堀川に沿ひ南走して蓬萊橋に至る路線

十一 白魚橋南詰より南下して木挽町二丁目、三丁目を貫通し同町四丁目、五丁目、六丁目、七丁目の各町界に沿ひ汐留川岸に至る路線

十二 采女町十八番地先電車通より南下して木挽町九丁目十一番地先に至る路線

十三 南八丁堀一丁目一番地先より南へ新富町一丁目二番地先に至る路線

十四 木挽町九丁目二十四番地先より同町十丁目を経て築地川に沿ふ路線

十五 木挽町九丁目築地川沿ひの路線

十六 築地橋南詰より築地川に沿ひ采女橋東詰に至る路線

十七 築地二丁目二十六番地先より南走して築地三丁目築地川東支川河岸通に至る路線

**第二 乙率適用路線**

甲率適用以外の線路

路線價指數は土地の状況に依り三百五十個乃至千個と評定せり、即ち木挽町三丁目と采女町の界をなす歌舞伎座前電車通を最高千個、上柳原町、南本郷町の町界路線を最低三百五十個としたり、路線價指數に基き算出せる土地各筆平均坪當指數の最高は千五十五個木挽町四丁目一番ノ一にして、最低は二百五十五個築地三丁目百十八番なり。

宅地全筆の總指數は土地總指數七千四百五十四萬五千九百二十六個より私道指數七百八十四個を控除したる七千四百五十四萬五千四百四十二個にして、之を宅地總面積の十七萬七千九百三十三坪四合八勺にて除したる平均坪當指數は四百十九個なり。

借地權利價割合は市有河岸地を五割五分、一般宅地を三割乃至四割と定めたり。



## 第二節 整理後土地の評価

整理後路線價指數に關する件は大正十五年七月十二日土地區劃整理委員會に附議せしも決定するに至らざりしが、昭和四年十二月二日土地各筆清算に關する件を附議するに當り、之が内容を爲すものとして當局は本案を撤回したり、尙土地各筆平均坪當指數に關する件は同様の趣旨を以て當初より委員會へ提案を爲さざる事とせり。

本地區整理後の土地評價には整理前と同じく甲及乙の兩率を適用したり、其の兩率適用の路線を擧ぐれば左の如し。

### 第一 甲率適用路線

- 一 幹線全部
- 二 補助線全部
- 三 整理前甲率適用の路線全部

### 第二 乙率適用路線

甲率適用以外の路線

路線價指數は土地整理の狀況に依り三百十個乃至千百三十個と評定せり、即ち木挽町三丁目と采女町の界を爲す歌舞伎座前の電通整理前千個に評定したる箇所を最高千百三十個とし、南飯田町、上柳原町及南本郷町の中央を南北に通ずる六米區劃整理路線を最低三百十個とせり、路線價指數に基き算出せる土地各筆平均坪當指數の最高は千百個采女町一番にして、最低は二百七十一個築地三丁目百九番なり。換地全筆の總指數は六千九百四十五萬六千八十一個にして之を換地總面積の十四萬五千七百八十六坪二合七勺にて除したる平均坪當指數は四百七十五個なり。

借地權利價割合は整理前と同じく市有河岸地を五割五分、一般宅地を三割乃至四割と定めたり。

以上記述せる整理前後に於ける最高最低の路線價指數並坪當指數及宅地總平均坪當指數を表示すれば

左の如し。



及南本郷町の中央を南北に通ずる六米區劃整理路線を最低三百十個とせり、路線價指數に基き算出せる土地各筆平均坪當指數の最高は千百個采女町一番にして、最低は二百七十一個築地三丁目百九番なり。換地全筆の總指數は六千九百四十五萬六千八十一個にして之を換地總面積の十四萬五千七百八十六坪二合七勺にて除したる平均坪當指數は四百七十五個なり。

借地權利價割合は整理前と同じく市有河岸地を五割五分、一般宅地を三割乃至四割と定めたり。以上記述せる整理前後に於ける最高最低の路線價指數並坪當指數及宅地總平均坪當指數を表示すれば左の如し。

整理前後路線價各筆坪當宅地總平均坪當指數調

區分	整理前		整理後	
	指數	價格	指數	價格
路線價	1,000 <small>個</small>	75.00 <small>円</small>	1,130 <small>個</small>	87.5 <small>円</small>
各筆坪當	最高 1,055 最低 255	79.25 19.25	1,100 271	85.00 103.25
宅地總平均坪當	49	34.25	47.5	36.25

備考 指數單價は七十五錢なり。  
又整理前後に於ける所有權借地權の評定權利指數を掲ぐれば左の如し。



第二十二地區 甲 整地

整理前後所有權借地權評定權利指數調

六〇八

區分	整理前		整理後	
	指數	價格	指數	價格
所有權	外 (内私道) 五、七九三、四八〇 <sup>圓</sup> 七八四	四一、八四五、二〇〇 <sup>円</sup>	五五、六三三、九七五 <sup>圓</sup>	四、七四、七三二 <sup>円</sup> 二五
借地權	外 一三、八六三、一〇六 一、〇八〇	一〇、三九七、三九・五〇 二六、一〇六・七五	一三、八三三、一〇六	一〇、三六七、三九・五〇
合計	外 (内私道) 六九、六五六、五八六 六四四	五二、二四三、四九・五〇 五八・〇〇	六九、四六六、〇八二	五三、〇二一、〇六〇・七五
	外 四、八八九、三四〇	三、六六七、〇〇五・〇〇		

備考 一 整理前外書は潰地充當用買收地の指數及價格なり。  
 二 整理前の總指數(潰地充當用買收地の指數を包含するものは七四、五四五、九二六個なり)。  
 三 整理前宅地總指數(私道の指數を含まざるものは七四、五四五、一四二個なり)。

尙整理前後に於ける土地權利價割合を表示すれば左の如し。

整理前後土地權利價割合調

區	域	土地權利價割合	計
		所有權	
		借地權	



三 整理前宅地總指數私道の指數を含まざるものは七四、五四五、一四二個なり。  
 尙整理前後に於ける土地權利價割合を表示すれば左の如し。

整理前後土地權利價割合調

區	域	土地權利價割合		
		所有權	借地權	計
一 三原橋東詰より萬年橋を経て市電本願寺前停留場に於て北折し築地橋に至る路線		六〇	四〇	一〇〇
	一 築地橋より櫻橋に至る路線			
	一 出雲橋南詰より木挽町九丁目築地川岸に至る路線	五五	四五	一〇〇
	一 朝日橋東詰より三十間堀川に沿ひ蓬萊橋に至る路線			
一 朝日橋東詰より祝橋を経て備前橋に至る路線				
一 其の他				
一 市有河岸地		四五	五五	一〇〇

第二十二地區 甲 整地



### 第五章 換地處分

#### 第一節 換地處分案の決定

土地各筆清算に關する件は昭和四年十二月二日土地區劃整理委員會に附議し、同月十八日原案の通可決、換地處分に關する件及補償金の配當に關する件は昭和五年一月十八日同委員會に各附議し、補償金配當に關する件は同月二十一日、換地處分に關する件は同月二十七日何れも原案の通可決せるを以て、翌二十八日內務大臣に本地區の土地區劃整理設計、換地處分及土地補償金の配當方法決定に關する認可申請を爲し、同年二月六日認可、同日內務省告示第三十一號を以て換地處分認可の告示あり、依て即日東京市告示第四十號を以て右換地處分の件認可ありたるに付、土地補償金受領権利者は二月六日より十日迄に東京市復興事業局第一出張所に申告書を提出すべき旨を告示せり、而して本地區に於て換地處分を爲したる土地は所有地整理前八百四筆、整理後九百七筆、借地整理前二千六百四件、整理後二千五百二十件なり、土地権利者は所有者整理前後共四百十五人、借地権者整理前後共千八百四人なり。

土地各筆清算に際しては整理前要件清算宅地評定権利指數六千九百六十五萬六千五百八十六個を以て、換地の評定権利指數六千九百四十五萬六千八十一個を除したる比率〇九九七一二一五を、整理前の各筆權利指數に乗じて整理前の比例權利指數を算出せり。

換地處分の結果左の如し。

#### 一 清算を爲したるもの

換地 説明	從前	換地	計算上の清算	清算
	面積	面積		
比例權利指數	積	積	徴收	徴收
	評定權利指數	評定權利指數		
徴收	交	付	徴收	交
	交	付		



一 清算を爲したるもの

換地 説明 書別	從前の土地		換地		計算上の清算			清算	
	面 積	比例 權利 指數	面 積	評定 權利 指數	徵 收	交 付	徵 收	交 付	
甲 一六三、八九八・六五 八、一三七・九一	五七、一四〇、四八七 圓	四二、八五五、三六五・二五	四五、七六六・二七 七、三三〇、六五	五七、一四七、〇七 圓	一、〇六八、八四九、七五 六五三、六一、七五四 一〇、二七五・五〇	徵收金と相殺 し得るもの	供託を要 するもの	八七四、〇九五・七五	八六九、一八三・二五
乙 一七六、一三四・三九	九、三三六、六九五・五〇	一一、三二五、五九四	一六九、一五五・七七	一一、三〇九、〇四 四	二九〇、一四七、五二 五、〇三七・二五		—	二六〇、七三一・五〇	二六五、六四四・〇〇
計 一六三、八九八・六五 八、一三七・九一	五七、一四〇、四八七 圓	四二、八五五、三六五・二五	四五、七六六・二七 七、三三〇、六五	五七、一四七、〇七 圓	一、〇六八、八四九、七五 六五三、六一、七五四 一〇、二七五・五〇		—	八七四、〇九五・七五	八六九、一八三・二五

備考 一 換地説明書別欄甲は所有權と所有權者にして借地權を有するものの借地權との清算を、乙は借地權のみの清算を掲ぐ。

二 從前の所有地面積は臺帳面積に據り、借地面積は申告面積なり。

三 甲借地面積は乙より移記したるものにして、乙借地面積は甲に移記したるものを除きたる面積なり。



二 特別處分を爲したるもの

一 換地を交付し清算を行はざりしもの

所有者	從前		換地	
	區町丁目	地番	區町丁目	地番
京橋區木挽町 一丁目	二二	河岸地	京橋區木挽町 一丁目	四六
同 南小田 原町一丁目	二二ノ七	同	同 南小田 原町四丁目	一八
同 南飯田 町	一三ノ一	同	同 南飯田 町	二〇
計	一四・九	河岸地	計	一〇九・四
京橋區木挽町 四丁目	六地先	河岸地	京橋區木挽町 四丁目	一六
同	一地先	同	同	一六
同	一四	同	同	一六
計	一四	河岸地	計	三九・六
合計	一四	河岸地	合計	三九・六



二 換地を交付せず清算金を交付したるもの

権利者	區町丁目	地番	地目	權利別	面積	指數	價格	摘要
大藏省	同 築地二丁目	一八ノ二	同	同	四・八四	一、五八	一、一六・〇〇	同
計					四九・五〇	三三、六一	一〇、二〇八・三五	
京橋區 木挽町一丁目		五地先	地雜種	所有權	四・六 <sup>坪</sup>	二、〇四三 <sup>個</sup>	九、〇三・三五 <sup>円</sup>	大藏省との協議による
伊達宗彰	京橋區 木挽町二丁目	五ノ二	宅地	同	二・九八	一、二六八	五五・〇〇	小面積にて一筆換地として不適當なるに依る
伊達宗定	新富町五丁目	一二	道路	同	一・三五	七・八二	五六・五〇	道路敷
後藤福次郎	同 木挽町二丁目	五ノ二 ノ(1)	宅地	賃借權	二・九〇	五・四	四〇八・〇〇	二筆に跨る借地を一筆に取纏めたるに依る
廣濱甚藏	同 一丁目	五ノ 地先(1)	同	同	四・六	一四、七二〇	二、〇四・〇〇	道路敷
住原マキ	同 築地二丁目	一四ノ七	同	所有權	三・〇〇	一、五七七	一、一五・七五	小面積にて一筆換地として不適當なるに依る
石井柳助	同 木挽町二丁目	四ノ(12)	同	賃借權	二・七一	三・四三	一五七・二五	私道

第二十二地區 甲 整地



第二十二地區 甲 整地

所有者	區町丁目	地番	地目	面積	積算	摘要
杉本鶴五郎	京橋區 築地二丁目	三ノ一	宅地	一〇・〇〇	二六	一九・五 私道
同	同	三ノ二	同	三	二七・〇	同
千葉恒太郎	同	三ノ二	同	二四	一八・五	同
同	同	三ノ二	同	二七・二九	三三・八九・五	同
合計				六六・二九	三三・〇八・〇〇	

六一四

三 換地を交付せず且清算金を交付せざりしもの

所有者	區町丁目	地番	地目	面積	積算	摘要
徳川頼貞	京橋區 木挽町二丁目	一四ノ四	道路	三六・三	三六・三	道路敷
岡崎増太郎	同	一三ノ三 外一筆	同	九三・〇一	九三・〇一	同
伊達宗定	同	一四ノ三 外一筆	同	一、三六・七	一、三六・七	同
伊達宗彰	同	一一ノ二	同	一、三〇七・六	一、三〇七・六	同
三枝マサ	同	一一ノ二	同	七・七	七・七	同
杉浦六右衛門	同	九ノ二 外一筆	同	二七・六	二七・六	同

木下利吉	同	一四ノ三	同	一四・二〇	一四・二〇	同
大澤幸次郎	同	一五ノ二 外一筆	同	九・〇三	九・〇三	同

同	同	一四ノ三	同	一四・二〇	一四・二〇	同
同	同	一五ノ二 外一筆	同	九・〇三	九・〇三	同

同	同	一四ノ三	同	一四・二〇	一四・二〇	同
同	同	一五ノ二 外一筆	同	九・〇三	九・〇三	同







第二十二地區 甲 整地

東京市

項目	筆數	用途	面積 (坪)
京橋區 木挽町四丁目	一ノ二 外二筆	道路	五・三
同 同 七丁目	六ノ二 外一筆	同	二六・七
同 築地一丁目	五ノ二 外二筆	同	二七・九
同 同 二丁目	二ノ三 外三筆	同	三三・九
同 同 三丁目	一一ノ二	同	一四・六
小計	九ノ七	都市計畫事業用地	一八・三
同 築地一丁目	一ノ一	同	五・八
同 同	九ノ四	同	一九・五
同 同	二二ノ二	同	二六・五
同 同 二丁目	四ノ二	同	三五・八
同 同	一一	同	三三・六
小計	一一二	公園敷	七三・〇
同 同		潰地充當用買收地	三三・〇
計		此の實測面積 千五百九十七坪八合四勺	一、〇〇〇・〇〇
計			三、四八二・三六

京橋區 木挽町二丁目

一五  
一八ノ四

道路

五・七  
二・三

道路敷







合 計	京橋區 南小田原町四丁目	二	内務省用地	三〇五・五二	潰地充當用買收地
	同	七	同	五五・四四	同
	同	八	同	五四・七五	同
	同 南本郷町	三、四、五、 六、二	同	三〇〇・〇〇	同
	小 計			三、五八・六七	
				二、七五・七三	
				二〇、五三・三〇	

三

所有權以外の權利又は處分の制限の指定を爲したるもの

一 既登記の所有權以外の權利の指定を爲したるもの地上權七件、地上權假登記五十一件、抵當權二百五十二件、抵當權假登記六件、賃借權六件、賃借權假登記十一件、合計三百三十三件あり。

二 處分制限の指定を爲したるもの豫告登記一件、工場財團四件、所有權假登記五件、假差押九件、競賣申立六件、破産宣告一件、和議登記二件、華族世襲財産六件、合計三十四件あり。

三 未登記の所有權以外の權利の指定を爲したるもの賃借權二千五百二十九件あり。

備考 右の外係争中の賃借權百八件、借地法第六條該當地二十六件、同法第九條該當地八件あり。



二 處分制限の指定を爲したるもの豫告登記一件、工場財團四件、所有權假登記五件、假差押九件、競賣申立六件、破産宣告一件、和議登記二件、華族世襲財産六件、合計三十四件あり。

三 未登記の所有權以外の權利の指定を爲したるもの賃借權二千五百二十九件あり。

備考 右の外係争中の賃借權百八件、借地法第六條該當地二十六件、同法第九條該當地八件あり。

第二節 清算金

第一 土地補償金を以て徴收清算金に充當

本地區に於ける換地處分は昭和五年二月六日內務大臣の認可あり、而して清算金徴收額は金百十三萬四千八百二十七圓二十五錢にして、人員千五十一人なり、又土地補償金は同月十三日補償審査會に於て金七十四萬千三百八十七圓人員二千二百九人と決定せられ、同月十七日其の通知を受けたり、依て同年三月十日左記の通補償金を以て徴收清算金に充當處分を爲したり。

徴收清算金總額		補償金總額		補償金充當額		充當後徴收清算金		充當後交付補償金	
金 額	人員	金 額	人員	金 額	人員	金 額	人員	金 額	人員
一、二四、八七・二五	一、〇五一	七四一、三六・〇〇	二、一〇九	二六三、三六・七五	一、〇四四	八七一、六〇〇・五〇	八五〇	四七八、一六〇・二五	一、三三四

第二 換地處分に關する通知

換地處分に關する通知書は豫め換地説明書及補償金清算金臺帳に依り之を作成し置き、前項充當處分を爲したる後直に之が送達に著手し、市内居住者に對しては人夫を使用して之を送達し、其の他に對しては書留郵便を以て之を送達せり。

第二十二地區 甲 整地



人夫を使用して送達したるもの千九百十一通内送達を了したるもの千六百九十二通、現住所不明の爲持歸りたるもの二百十九通なり、又書留郵便に附したるもの二百九十八通内送達済のもの二百八十八通現住所不明として返送せられたるもの十通、其の他官公署に對するもの十四通にして結局送達を了したるもの計千九百九十四通、送達不能なりしもの計二百二十九通なり。

前記の如く多數送達不能となりたるは、轉居に因る現住所の異動又は権利者の變更ありたるも其の申告を怠りしに因るものにして、是れ等に對しては昭和五年三月十四日より地主又は管理人若は借家人等に就き種々苦心の結果現住所を調査し同年八月二十七日迄に夫々送達を了したり。

### 第三 清算金の徴收

本地區に於ける徴收清算金總額は金百十三萬四千八百二十七圓二十五錢なりしが、内金二十六萬三千二百二十六圓七十五錢に對し土地補償金を以て充當したる結果、各納付義務者より直接徴收すべき清算金は差引金八十七萬千六百圓五十錢にして人員八百五十人なり。

右徴收人員八百五十人中分納申請資格者即ち百圓以上納付すべきもの五百九十三人なるも、内官公署分六件を除き差引五百八十七人に對し分納申請期限を昭和五年三月三十一日とし、同月十日附を以て換地處分に關する通知書と共に分納申請書用紙を送付し置きたる處、右期限内に申請書を提出したるもの二百八十七人にして資格者總數に對し僅に四割八分餘に過ぎざりしを以て、同年四月二十一日未提出者三百人に對し更に同月三十日迄に提出方注意を促せし處、右期日迄に提出したるもの八十九人ありて結局申請者合計三百七十六人となり資格者總數に對し六割四分となりたり。

依て右申請書を審査の上同五年八月一日分納許可の決定を爲し同日各申請者に對し許可書を送付せり。今分納清算金に付其の内譯を示せば左表の如し。

回数區分	元	金	利	子	計	人	員	納	期	限
					四九、六七、〇三					三六、昭和五、八、三



局申請者合計三百七十六人となり資格者總數に對し六割四分となりたり。  
 依て右申請書を審査の上同五年八月一日分納許可の決定を爲し同日各申請者に對し許可書を送付せり。  
 今分納清算金に付其の内譯を示せば左表の如し。

回数區分	元	金	利	子	計	人	員	納	期	限
一	四九、六七・〇三			四、八九・二六	四九、六六・〇三	三六	昭	和	五、	八、三
二	四〇、一四・〇五			一三、五二・八五	五三、〇五・三三	三六	同	六、	二、元	
三	三九、一四・四五			一一、六二・四一	五〇、四三・三〇	三〇	同	七、	八、三	
四	三六、五八・六四			一〇、二五・二二	四七、四三・〇五	二九	同	七、	二、元	
五	三〇、六一・八六			八、六八・二四	四七、七三・九九	二七	同	八、	二、元	
六	三五、九六・二七			七、〇九・八三	四四、六一・二二	二〇	同	八、	二、元	
七	三五、二六・九八			五、七九・四四	四〇、四七・八一	一九	同	九、	二、元	
八	三五、六六・八八			四、三三・〇八	四〇、四六・〇三	一八	同	九、	二、元	
九	三五、九二・三三			二、九三・〇五	四〇、三五・四〇	一八	同	〇、	八、三	
十	三五、五七・〇三			一、四二・二四	三五、五五・八八	一七	同	〇、	二、元	
計	四三、一五・〇三			八〇、三三・四一	五〇、一四・一五	一四	同	八、	三	

本地區の清算金徵收事務は京橋區役所に於て取扱ふものにして昭和五年三月より之が徵收を開始せり。

#### 第四 清算金の交付

本地區に於ける交付清算金總額は金百十三萬四千八百二十七圓二十五錢にして昭和五年四月十四日之が支拂を開始し、同六年三月末日迄に交付せし金額百一十一萬六千二百六十九圓二十五錢なり。  
 而して前記交付濟額中京橋區役所に於て支拂を爲したるもの金百六萬二千四百二十一圓五十錢、官廳の納入告知書に依り市會計課に於て納付したるもの金五萬三千六百九圓二十五錢(内務省、大藏省、農林省、商工省及東京稅務監督局分)及他地區の徵收清算金と相殺に依り支出したるもの金二百三十八圓五十錢なり。



第六章 土地補償金

第一 補償金の算定並決定

本地區に於ける宅地減歩率は一割八分〇六六九八なりしを以て、特別都市計畫法第八條に依り補償金の交付を要する爲、同法第五條の規定に依る補償金の配當割合を定むるに當り、幹線街路敷充當用として國に於て買收したる土地及小公園敷充當用として市に於て買收したる土地に對しては該土地の指數相當額とし、其の他の土地に對しては補償總指數より前記指數を控除したる指數を各整理前の權利指數に按分するものとし、之を土地區劃整理委員會に諮問して決定せり(第一章第三節及第五章第一節參照) 次で前記配當割合に基き左表其の一に依り計算したる補償總指數を整理前各權利に配當して原案を作成の上、昭和五年二月十日補償審査會に提出し、同月十三日原案の通決定せられ、同月十七日其の旨通知を受けたり。

而して要交付補償金總額は金七十四萬千三百八十七圓にして人員二千九百九人なり。

補償金計算調書

(其の一)

摘		要		員	
整理前宅地總面積	整理後宅地總面積	整理前宅地總面積	整理後宅地總面積	員數	員數
一七七、九三三坪四八	一四五、七八六坪二七	一七七、九三三坪四八	一四五、七八六坪二七	二、一四七坪二一	二、一四七坪二一

整理前宅地總面積に對する潰地面積の割合  
 整理前宅地の一割に相當する面積

〇・一八〇六六九八  
 一七、七九三坪三四  
 一四、三五三坪八七



整理前宅地	整理後宅地	潰地
面積	面積	面積
積	積	積
一七七、九三三坪四八	一四五、七八六坪二七	三三一、一四七坪二一

整理前宅地總面積に對する潰地面積の割合	整理前宅地の一割に相當する面積	補償總面積	整理前宅地總面積	同平均坪當指數	指數	整理前宅地坪當價	補償總額	補償總數
〇・一八〇六六九八	一七、七九三坪三四	一四、三五三坪八七	七四、五五一四二個	四一九個	〇圓七五	三一四圓二五	六、〇一四、二七一	四、五一〇、七〇三圓二五

(其の二)

特別都市計畫法施行令第二十九條 該當中指數相當額配當のもの	面積	整理前指數	補償指數	補償金額	差引整理前宅地總指數	差引補償總數
所有權 借地權	積	指	指	額	數	數
一四、一七六坪七一 一五七坪六九		四、八八九、三四〇個	四、八八九、三四〇個	三、六六七、〇〇五圓〇〇	六九、六五五、八〇二個	一、一二四、九三一個
六二三						

第二十二地區 甲 整地



第二十二地區 甲 整地

六二四

補償金配當率 (整理前指數千個當)	面積	整理前指數	該當中按分率に依り配當のもの		差引要交付補償金額
			補償指數	補償金額	
一六個一四九八五三					
二七、六一八坪三四					
六四九坪一七					
八、四四〇、一九九個					
一三六、三〇八個					
一〇二、三三一圓〇〇					
七四一、三八七圓〇〇					

備考 一 指數單價七十五錢は昭和三年六月十九日補償審査會に於て決定せるものなり。  
 二 特別都市計畫法施行令第二十九條該當地の面積は土地臺帳又は官廳の臺帳面積を掲  
 上せり。

三 補償金配當率は前表差引整理前宅地總指數(六九、六五五、八〇二個)を以て差引補償總指  
 數(一、一二四、九三一一個)を除したるものなり。  
 四 各筆の補償金各所有權及借地權に對する補償金は、前號の配當率に依り補償指數を  
 求め之に指數單價を乗じて算出せるものなり。

第二 補償金國市負擔區分

本地區に於ける補償金國市負擔區分に關する計算は左記調査表の如く、國に於て金七十萬三千三百二  
 十七圓五十錢(人員二千百五十九人)市に於て金三萬八千五百九十九圓五十錢(人員五十人)を負擔するものなり。

國市負擔區分調査表

(其の二)

補償金	國	市	負擔	備考
-----	---	---	----	----



十七圓五十錢(人員二千五百五十九人)市に於て金三萬八千五百九十九圓五十錢(人員五十人)を負擔するものなり。

國市負擔區分調査表

(其の二)

面積	補償		面積	國負擔		面積	市負擔		備考			
	金額	指數		金額	指數		金額	指數	整理前面積	平均坪	國又は公有地指數	
一四、三三三・八七 <sup>坪</sup>	四、五二〇、七〇三・二五 <sup>円</sup>	六、〇四二・一七 <sup>個</sup>	一三、八二二・二 <sup>坪</sup>	四、〇五五、九四七・五〇 <sup>円</sup>	五、三六七、九三〇 <sup>個</sup>	一、五四三・六 <sup>坪</sup>	四八四、七五五・七五 <sup>円</sup>	六四六、三二 <sup>個</sup>	一七、九三三・四 <sup>坪</sup>	七四、五四五、一四二 <sup>個</sup>	四九 <sup>個</sup>	一三、三三九、五元 <sup>個</sup>

(其の二)

國負擔	種別	面積	補償		施行令第二十九條該當地	計	差引交付		
			金額	指數			金額	指數	
寺院の譲 與を受 ける土 地の割 りたる 額	幹線	一三、八二二・二 <sup>坪</sup>	四、〇五五、九四七・五〇 <sup>円</sup>	五、三六七、九三〇 <sup>個</sup>	九、二四四・二五 <sup>坪</sup>	三、三三三、一九五・五〇 <sup>円</sup>	四、三〇八、三九四 <sup>個</sup>	七〇三、四〇七・七五 <sup>円</sup>	九七、八七七 <sup>個</sup>
棄額								八〇・二五	一〇七

第二十二地區 甲 整地



總計	市負擔		總計
	計	小公園	
一四、三三三・八七	一、四二二・五	一、四二二・五	一三、八一一・九
四、五〇一、〇七三・三三	六四六、三三一	四八四、七五五・七五	五、三六七、九三〇
一〇一、三三三・〇〇	一四、六四九	一〇、九六六・七五	一一一、六五九
三、六六七、〇〇〇・〇〇	五八〇、九四六	四五、七〇九・五〇	四、三〇八、三九四
三、七六九、三三六・〇〇	五九五、五九五	四四六、六六六・二五	四、四三〇、〇三三
七四一、三三七・〇〇	五〇、七四六	三八、〇九五・五〇	九七、七七〇
六〇一、四二二・一一	六四六、三三一	四四六、六六六・二五	五、三六七、九三〇
一三六、三〇八	一四、六四九	一〇、九六六・七五	一一一、六五九
四、八八九、三四〇	五八〇、九四六	四五、七〇九・五〇	四、三〇八、三九四
五、〇三三、六四八	五九五、五九五	四四六、六六六・二五	四、四三〇、〇三三
四八四、七五五・七五	六四六、三三一	四八四、七五五・七五	五、三六七、九三〇
一〇、九六六・七五	一四、六四九	一〇、九六六・七五	一一一、六五九
四三五、七〇九・五〇	五八〇、九四六	四五、七〇九・五〇	四、三〇八、三九四
四四六、六六六・二五	五九五、五九五	四四六、六六六・二五	四、四三〇、〇三三
三八、〇九五・五〇	五〇、七四六	三八、〇九五・五〇	九七、七七〇

第三 補償金の申告

補償金の交付を受けむとする者は昭和五年二月十日迄に之に關する申告書を提出すべき旨申告書用紙を添へ権利者二千二百九人に對し注意書を發したるに、右期限内に出張所に提出したるもの二千三十六人なりしが、未提出者百七十三人に對しては本局に於て之を提出せしめたり。

第四 各権利者に直接交付すべき補償金

要交付補償金總額は金七十四萬千三百八十七圓也なりしが、内金二十六萬三千二百二十六圓七十五錢

を徵收清算金に充當したる結果、各権利者に直接交付すべき補償金は金四十七萬八千六百六十圓二十五錢（人員千三百二十四人）にして、之が國市負擔區分に依る内譯左表の如し。

補償金決定額	充當額	直接交付額



を添へ権利者二千二百九人に對し注意書を發したるに、右期限内に出張所に提出したるもの二千三十六人なりしが、未提出者百七十三人に對しては本局に於て之を提出せしめたり。

**第四 各権利者に直接交付すべき補償金**

要交付補償金總額は金七十四萬三千三百八十七圓也なりしが、内金二十六萬三千二百二十六圓七十五錢

を徴收清算金に充當したる結果、各権利者に直接交付すべき補償金は金四十七萬八千六百二十五錢（人員千三百二十四人）にして、之が國市負擔區分に依る内譯左表の如し。

區分	補償金決定額		充當額		直接交付額	
	補償金額	人員	補償金額	人員	補償金額	人員
國負	七〇三、三七・五〇	二、二五九	二四七、七三・七五	一、〇二四	四五、六三・七五	一、三〇〇
市負	三六、〇五・五〇	五〇	一五、五三・〇〇	三〇	三三、四六・五〇	一四
計	七四〇、四三・〇〇	二、三〇九	二六三、二六・七五	一、〇五四	七八九、一〇・二五	一、三一四

**第五 補償金の交付**

本地區に於ける市負擔補償金總額三萬八千五百九十九圓五十錢の内徴收清算金に充當したる金額一萬五千五百十三圓也は市會計規程に基き振替手續に依り昭和五年五月八日支出し、直接交付額二萬二千五百四十六圓五十錢は京橋區役所に於て同年四月三十日之が支拂を開始し、同年十一月二十七日迄に全部其の支拂を了したり。

國負擔補償金總額七十萬三千三百二十七圓五十錢の内徴收清算金に充當したる金額二十四萬七千七百十三圓七十五錢は昭和五年三月三十一日京橋區役所に納付し、直接交付額四十五萬五千六百十三圓七十五錢は同年三月其の支拂を開始し、同六年三月末日迄に支拂を爲したる金額四十五萬四千五百三十八圓二十五錢なり。



## 第七章 登記及地價配賦

### 第一節 登記

#### 第一 代位登記

土地に關し代位登記を爲したる件數は土地表示更正及變更百二件、土地名義人表示更正及變更二十五件、土地分合筆二百五十一件、家督相續五十七件、所有權保存一件なり。

#### 第二 區劃整理登記

土地囑託筆數は整理前六百九十筆、整理後七百七十一筆にして建物囑託件數は要登記のもの千二百三十三件、現存を認め難きもの三千二百四十六件なり、囑託書を東京區裁判所に提出したるは昭和五年六月二十六日にして、登記の完了は昭和五年十月三十一日なり而して登記停止期間は換地處分告示の日即ち昭和五年二月六日より約九ヶ月に亘れり。

### 第二節 地價配賦

#### 第一 地價配賦前の處理

本地區の土地區劃整理施行申告、工事著手届及工事完了届を京橋稅務署に提出したる年月日左の如し。

一 土地區劃整理施行申告 昭和三年六月十九日

一 工事著手届 同 日

一 工事完了届 同 五年二月六日

#### 第二 地價配賦

地價配賦案は昭和五年六月二十七日之が作成を了し、同日京橋稅務署長に提出し、同年十一月一日地價配賦許可の指令を受けたり。

本地區整理前有租地の地價總額は二百十九萬千五百五十三圓三十三錢にして、整理に依り減少したる有



- 一 土地區劃整理施行申告 昭和三年六月十九日
  - 一 工事著手届 同 日
  - 一 工事完了届 同 五年二月六日
- 第二 地價配賦

地價配賦案は昭和五年六月二十七日之が作成を了し、同日京橋稅務署長に提出し、同年十一月一日地價配賦許可の指令を受けたり。

本地區整理前有租地の地價總額は二百十九萬千五百三十三圓三十三錢にして、整理に依り減少したる有租地面積に對する控除地價額は二十六萬九千三百七十八圓九十五錢なり、之を前述の地價總額二百十九萬千五百三十三圓三十三錢より控除したる百九十二萬千七百七十四圓三十八錢は即ち整理後有租地に對し配賦せらるべき地價總額とす、而して整理後各筆評定指數千個當配賦地價額は三十二圓二十一錢二九二四七なり、地價配賦算定に關する數字を示せば左の如し。

一 整理前後有租地面積

整理前面積	整理後面積	差引減步面積
三三、八二・八 <sup>坪</sup>	一三、六三・七 <sup>坪</sup>	一七、一八・五 <sup>坪</sup>

二 整理前有租地坪當平均地價

整理前有租地面積	同上總地價	坪當平均地價
三三、八二・八 <sup>坪</sup>	二、九、二五・三 <sup>円</sup>	一五・六七 <sup>円</sup>

第二十二地區 甲 整地



第二十二地區 甲 整地

三 控除せらるべき地價

有租地差引減歩面積	坪 一七、一八・五	坪當平均地價	円 一五・六七	控除地價	円 二六九、三八・九
-----------	--------------	--------	------------	------	---------------

六三〇

四 整理後評定指數千個當配賦地價額

整理後有租地總指數	個 五、六五八、四八八	配賦地價額	円 一、九二二、七四・三	指數千個當配賦地價額	円 三、三二九・四七
-----------	----------------	-------	-----------------	------------	---------------

次に整理前後の土地を有租地、免租地及公共用地の區分に從ひ地目別に掲記すれば左の如し。  
整理前後面積及筆數調

區分地目	從前の土地		整理後の土地		面積差引		筆數差引	
	臺帳面積	筆數	實測面積	筆數	増	減	増	減
有租地 宅地 内下水敷	二七、三七・二 <sup>坪</sup> 三二・八一	六二	二二、六三・七 <sup>坪</sup> 七・二	七二		一四、七〇・五 <sup>坪</sup>	一七	
民有免租地 道 墓 計	四、一七・三 一八・〇〇 四、三七・三六	六 六 六	一六〇・五 一〇・五	六 六		四、一七・三 二五・四 四、三三・八七		

區有免租地 公立學校敷地	二、五八・一七	二	二、六〇・三	三	一〇・八六			
墓 地	一、六五・〇〇	一四	一〇一・五	五		一、〇六・四五		九



民有免租地	
道	墓
路	地
計	計
四、一七·三六	四、一八·〇〇
六	六
一六〇·五二	一六〇·五二
六	六
四、一八七·三六	四、二二·八七
二五·四九	四、二二·八七
四、一八七·三六	四、二二·八七
二五·四九	四、二二·八七

區有免租地	市有免租地										府有免租地		
	公立學校敷地	墓	道	河	都	同	區	軌	下	道		道	警
計	地	路	岸	市	市	役	道	水	事	業	計	視	路
計	地	路	地	計	所	敷	用	敷	業	用	地	廳	地
二、五九·一七	一、一六五·〇〇	一、八六·六六	七、九三·七三	一、八六·六六	一、七四·七六	四〇·一四	一五·二四	二〇·七〇	一、七四·七六	二五·五五	一三、一五·六九	三六四·四四	三六四·四四
二	一四	二六	四七	一	一	一	一	二	一	八	一〇三	九	八
二、六〇九·〇三	一〇一·五五	六、四二·四五	一、六六·〇六	一、四二·三〇	三三·五五	三六·二七	一三·七〇	七、二九三·八四	一、四二·三〇	三九一·三〇	三九一·三〇	三九一·三〇	三九一·三〇
三	五	八	一	二	一	一	一	九	二	一	一	一	一
一〇·八六	二六六·〇六	二六六·〇六	二六六·〇六	二六六·〇六	二六六·〇六	二六六·〇六	二六六·〇六	二六六·〇六	二六六·〇六	二六六·〇六	二六六·〇六	二六六·〇六	二六六·〇六
一〇、六二·四五	一、八六·九六	一、五二·二六	二〇·七〇	一、六四三·四六	二五·五五	三七·〇九	一、五四	六、一六七·九二	一、六四三·四六	三六四·四四	三六四·四四	三六四·四四	三六四·四四
一	一	四	一	一	一	一	一	四	一	一	一	一	一
九	二	二	二	一	一	一	一	八	一	一	一	一	一

第二十二地區 甲 整地



合計	公共用地					國有免租地									
	外墓地	共同物揚場	公園地	溝渠	河川運河	道	外墓地	雜地	道	內務省用地	農林省用地	寺地	大藏省用地	陸軍省用地	商工省用地
内下水敷	一〇〇						一〇〇								
外墓地	二七、六三・三〇						二六、五一・七六								
合計	二七、六三・三〇	八六、七九・〇八					二六、五一・七六	四九、五〇	一四、六六	三三、六九・〇六	一、三三・五〇	一、〇三・二一	二〇、二五	二、四九・五〇	
支一							四	二	二	一五	一	一	一	三	
支二	二七、八四・四〇	二七、七〇・三三	三八・〇四	一、五四・五九		九〇、七三・八九	二、〇四・四六			九〇・三三	一、〇七・九六	二五、二六	七六・〇二	一八・五九	二、〇九・六六
支三							二六			一	一	一	一	四	
支四	四、四三・一九	四三、〇七・〇四	三八・〇四	一、五四・五九		三五、六五・四三	南・兜								
支五	四、〇三・〇五	一、一五・一九					一三、六九・七九	四九・五〇	一四、六六	三、五九・七三	一五・五	一四・七四	二六・〇九	一・六六	二八・八四
支六															
支七															
支八															
支九															
支十															
支十一															
支十二															
支十三															
支十四															
支十五															
支十六															
支十七															
支十八															
支十九															
支二十															
支二十一															
支二十二															
支二十三															
支二十四															
支二十五															
支二十六															
支二十七															
支二十八															
支二十九															
支三十															
支三十一															
支三十二															
支三十三															
支三十四															
支三十五															
支三十六															
支三十七															
支三十八															
支三十九															
支四十															
支四十一															
支四十二															
支四十三															
支四十四															
支四十五															
支四十六															
支四十七															
支四十八															
支四十九															
支五十															
支五十一															
支五十二															
支五十三															
支五十四															
支五十五															
支五十六															
支五十七															
支五十八															
支五十九															
支六十															
支六十一															
支六十二															
支六十三															
支六十四															
支六十五															
支六十六															
支六十七															
支六十八															
支六十九															
支七十															
支七十一															
支七十二															
支七十三															
支七十四															
支七十五															
支七十六															
支七十七															
支七十八															
支七十九															
支八十															
支八十一															
支八十二															
支八十三															
支八十四															
支八十五															
支八十六															
支八十七															
支八十八															
支八十九															
支九十															
支九十一															
支九十二															
支九十三															
支九十四															
支九十五															
支九十六															
支九十七															
支九十八															
支九十九															
支一百															

乙 建物其他の工作物移轉



合	計	外	墓	地	内	下	水	敷	二七、六三・〇〇	一〇〇	三〇・八一	二七、七〇・三三	二七、八四・四四	九七	四、四三三・九二	四〇、〇一〇・〇四	二四	八
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----------	-----	-------	----------	----------	----	----------	-----------	----	---

## 乙 建物其他の工作物移轉

### 第一章 整理前の建物

#### 第一節 建物狀況

本地區整理前の宅地總面積は十七萬七千九百三十三坪四合八勺にして、之に所在する建物の總棟數は四千六百棟、此の延坪數十一萬九千六百九十三坪四合なり、而して建物一棟當り宅地面積は三十八坪六合八勺、同建物延坪數は二十六坪二勺なり。  
前記總棟數の内移轉を要するもの四千五百七十棟にして、爾餘の三十棟は換地の關係に依り、其の儘据置き得る不要移轉建物なり、之を構造別に示せば左の如し。

種別	建物總數		内		譯
	棟數	延坪數	要移轉建物棟數	延坪數	
木造建物	四、五三	一九、六八・六一 <sup>坪</sup>	四、五二	一七、四五・六一 <sup>坪</sup>	二四
石造平家建	一	三・〇〇	一	三・〇〇	
煉瓦造平家建	二	五七・八八	二	五七・八八	
同 二階建	二	三二・八六	二	三二・八六	
鐵骨造平家建	一〇	三〇・七〇	一〇	三〇・七〇	
同 二階建	二	八四・三七	二	八四・三七	
合計					二、六三・〇〇 <sup>坪</sup>

第二十二地區

乙 建物其他の工作物移轉



第二十二地區 乙 建物其の他の工作物移轉

種別	棟數	要移轉棟數に對する百分比	延坪數	一棟平均坪數
鐵骨、鐵筋コンクリート造 三階	一	三五・六四	一	一
同 四階	四	五、五七・六五	一	四
同 鐵筋コンクリート造 家	五	九四・三	九四・三	一
同 二階	二	五・七〇	五・七〇	一
同 三階	二	二、二二・七三	五・七三	一
同 四階	一	九六・〇〇	九六・〇〇	一
土藏造 平家建	一	六・一三	六・一三	一
計	四、九〇〇	一一九、六三・四〇	一〇九、八七・二二	二二、〇七・〇〇
建物總數に對する百分比	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	九九・五五	〇・五五

六三四

要移轉建物の用途を大別すれば、商店千七百六十棟の三割八分を最高とし、住宅千五百二十八棟の三割三分之に次ぎ、以下飲食店、待合、事務所等の順位なり、之を表示すれば左の如し。

種別	棟數	要移轉棟數に對する百分比	延坪數	一棟平均坪數
官署	七	〇・一五	九四・一六	一三・四五
學校	二	〇・二九	一、〇一〇・三五	六・九
幼稚園	二	〇・〇四	一、五・二五	七・八一
寺	四〇	〇・八七	七、七・八七	一八・二〇

病 祠  
院 宇  
一、二七・六  
九〇七・八五  
一〇・三七  
二、五九  
二、四・四



第二十二地區 乙 建物其他の工作物移轉

質娛席觀藝待飲料商木寄下旅住事銀醫病祠

樂物妓 食理賃宿宿 務

屋場亭場屋合店店店宿舍業館宅所行院院宇

六 一七 四 四 五 一六 二二 三六 一七六〇 一 二 五 三四 一五八 一五三 六 四九 一四 四

〇・一三 〇・三七 〇・〇九 〇・〇九 一・一八 三・六三 四・六四 〇・八三 三六・五 〇・〇二 〇・〇四 〇・一一 〇・七五 三三・四 三・三五 〇・一三 一・〇七 〇・三 〇・〇九

二二七・一七 五五五・六二 二六九・八七 八四三・九一 一、五八・八六 八、六五・五 四、一七四・九三 一、九六・三八 三三、七三〇・八九 六一・八三 七〇・二〇 一三三・六七 二、三四・七〇 三三、五〇・二 六、二八七・元 一、一七・三八 一五〇・三三 九〇七・八五 一〇・三七

六三五

三六・一九 三三・六 六七・四七 二二〇・九八 二八・二三 五・九六 一九・六九 五・七五 一九・七 六二・八三 三五・一〇 四六・三三 六八・六七 二二・九 四一・〇九 二五・〇五 二四・四四 六四・八五 二・五九

寺幼學官

稚公

院園校署

四〇 二 三 七

〇・八七 〇・〇四 〇・二元 〇・一五

七、七・八七 一、五・二五 一、〇〇・三五 九、四・一六

一八・二〇 七、八・二三 六、八・四九 三三・四五



第二十二地區 乙 建物其の他の工作物移轉

浴場	理髮店	周旋業	運送業	工場	小工場	倉庫	自動車	其の他	計
一	充	四	六	三	六	一〇〇	三	三	四、五七〇
〇・元	一・五	〇・九	一・九	〇・五	三・〇〇	二・一九	〇・六	〇・元	一〇〇・〇〇
七六〇・六九	一、二・八四	二四・五九	二、〇五・五四	一、九〇・七三	二、四二・四	二、三六・三	三七・五	二〇六・六	一〇九、八七・一一
四二・六	一六・六	六〇・四〇	二四・五九	二八・八五	一七・八二	一三・六	一六・四	一五・九〇	二四・〇五

六三六

第二節 地區告示後の建築

大正十三年三月二十七日東京都市計畫土地區劃整理施行地區の告示後に於て、假設建築物として新築、改築、増築等の爲、東京府知事に許可申請を爲したるもの建物千二百三十三棟、工作物七件、内許可せられたるもの建物九百九十六棟、工作物五件、許可せられざりしもの建物二百三十七棟、工作物二件なり、而して前記の如く不許可の指令を受けたるにも拘らず、新築、改築、増築等を爲し、事業施行の必要上、移轉を要したるもの建物百七十一棟なり。

以上の建物其の他の工作物を新築、改築、増築等に區分し、尙不許可處分を爲したるものに對しては其の原因を類別し各之を表示すべし。

假設建築物築造申請に對する種別調

區分	申請	許可	不可	許可	不可
建物棟數					
工作物件數					



り、而して前記の如く不許可の指令を受けたるにも拘らず、新築、改築、増築等を爲し、事業施行の必要上、移轉を要したるもの建物百七十一棟なり。  
 以上の建物其の他の工作物を新築、改築、増築等に区分し、尙不許可處分を爲したるものに對しては其の原因を類別し各之を表示すべし。

假設建築物築造申請に對する種別調

區分	申請		許可		不許可	
	建物棟數	工作物件數	建物棟數	工作物件數	建物棟數	工作物件數
新築	一、二七	三	九六	二	二六	一
改築	九	二	二	一	八	一
増築	三七	七	一四	二	三	一
計	一、三三	一三	一一二	五	三六	二

不許可處分の原因調

區分	建物棟數		工作物件數	
	路	坪	路	坪
線支障換地支障	一五	三	一	一
地支障	三	三	一	一
河支障	三	三	一	一
運河超	四	三	一	一
坪數超	五	三	一	一
路線支障	三	三	一	一
坪數超	二	三	一	一
路線支障	二	三	一	一
計	三三	三	一	一

第二十二地區 乙 建物其の他の工作物移轉



第二章 移轉計畫

本地區は之を六十六箇の移轉群に分ち、大正十五年八月より建物及工作物の現状調査に著手し、調査の移轉群より逐次移轉工法並工程を定め、昭和二年十月全部の移轉計畫を終了せり。  
 前記計畫に當り、木挽町十丁目十二番所在商工省廳舎一棟延坪千二百坪は、八米區劃整理街路敷に該當し移轉を要したるも、協議の結果其の撤去は之を中央諸官衙の新築落成迄留保することとし、本計畫より除外せり。

而して要移轉建物四千五百六十九棟商工省廳舎一棟を除くに對する移轉工法を見るに、移築一部除却に依るもの千九百八棟にして四割一分を占め、之に次ぐは曳方一部除却の千四百九十一棟にして三割二分に相當し、他は移築、曳方、据置一部除却、除却の順位なり、之を構造別に示せば左の如し。

種別	工法別棟數				計
	曳方	一部除却	移築	一部除却	
木造建物	58	1,466	53	1,885	4,511
石造平家建	1	1	1	1	1
煉瓦造平家建	2	1	3	0	1
同 二階建	1	3	1	4	1
鐵骨造平家建	2	1	6	5	2
同 二階建	1	1	1	1	1

鐵筋コンクリート造平家建	3	1	1	1	5
同 二階建	1	1	1	1	2



同	鐵	同
二	骨	二
階	造	階
建	平	建
建	家	建
建	建	建
二	一	一
三	三	三
六	六	六
二	五	四
二	二	二
二	二	二

鐵筋 コンクリート 造平家建	同 二階建	同 三階建	同 四階建	土 藏造平家 建	計	要移轉總棟數に對する百分比
三	一	一	一	一	二・三三	二・三三
一	一	一	一	一	一・四九	三・三三
二	一	一	一	一	一・四五	一三・四六
一	一	一	一	一	一・九〇八	四・六六
一	一	一	一	一	〇・八一	〇・八一
一	一	一	一	一	〇・〇一一	〇・〇一一
五	二	一	一	一	四・五六九	一〇〇・〇〇

備考 一 鐵筋コンクリート四階建の据置一部除却一棟とあるは、道路敷に該當せる建物の腰廻りの一部を除却せるものにして、建物の坪數に影響を及ぼさざる程度のものなり。  
二 除却したる建物一棟は、移轉命令後に於て他人の換地に無斷建築し、命令建物の移轉に支障となりたるを以て、之を除却したるものなり。

建物の移轉實施期間を、昭和二年一月より同四年四月迄の二年四月とし、昭和二年に於て千九百九十八棟、同三年に於て二千五百六十二棟、同四年に於ては四月迄に九棟の工事を完了することに豫定したり、之を月別に示せば左の如し。

年	月	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計	累計
昭和二年	一四	五	一〇八	二六	一三	九	三八	二四	三四	二七二	二五	六	一、九九六	一、九九六	
同三年	一〇五	四五	五四	五九	三七	三五	七	四	三五	五	三	四	二、五八二	四、五六〇	
同四年	四	二	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	九	四、五六九	

第二十二地區 乙 建物其の他の工作物移轉



第二十二地區 乙 建物其の他の工作物移轉

前記計畫に依るときは、要移轉建物四千五百六十九棟、此の延坪數十萬八千六百九十七坪一合一勺は整理後に於て其の棟數一棟を減じ、坪數に於ては二割一分の縮少を來し、八萬五千八百五十一坪九合五勺となる、之を建物の構造別に對照すれば左の如し。

六四〇

種別	整理前建物		整理後建物		差引	
	棟數	延坪數	棟數	延坪數	棟數	延坪數
木造建物	四、五二	一〇六、四四・六 <sup>坪</sup>	四、五〇	八三、五二・八 <sup>坪</sup>	一	二二、九一・八 <sup>坪</sup>
石造平家建	一	三・〇〇	一	一・八七	一	一・一三
煉瓦造平家建	二四	五七・八	二四	五八・三	一	三・七五
同 二階建	二	三二・八	二	二八・四	一	三・四
鐵骨造平家建	一〇	三〇・七	一〇	二七・〇五	一	三・六五
同 二階建	二	八四・七	二	七四・六	一	九・一
鐵筋コンクリート造平家建	五	九四・三	五	九四・三	一	七・七
同 二階建	二	五・七〇	二	四・〇三	一	一・六七
同 三階建	一	五・七三	一	五・七三	一	一・〇
同 四階建	一	九六・〇〇	一	九六・〇〇	一	一・〇
土藏造平家建	一	六・二三	一	六・二三	一	一・〇
計	四、五六	一〇八、六七・二	四、五六	八五、八五・一 <sup>坪</sup>	一	二二、八二・一 <sup>坪</sup>







第三章 移轉手續

第一節 移轉命令

大正十五年九月二十五日第一次移轉命令として、南飯田町の一部、第六十四移轉群建物百三十四棟に對し、移轉命令八十一通、同通知百十八通を發し、爾來引續き發令に努め、昭和二年十一月三十日同町の一部第六十五移轉群の發令を最後とし、要移轉建物四千五百六十九棟の内、協議並直轄移轉に依る百九十一棟を除きたる四千三百七十八棟及工作物に對し、移轉命令三千九十六通、同通知三千九百二十六通を發し、茲に全部の發令を終へたり、之を月別に示せば左の如し。

年	大正十五年					計	月	命令棟數	命令通數	命令通知通數
	九月	十月	十一月	十二月	十一月					
	一						一四	六	一	
							三三	一四	三	
							三三	三三	四三	
							三六	三五	三五	
							一七	三	三	
							四七	二五	四九	
							一七	三	三	
							四七	二五	四九	

五 四  
月 月

一六  
一七  
一八

一六  
一七  
一八

一六  
一七  
一八



三	二	一							
月	月	月							
四〇七	一七二	一							
二五五	九三	一							
四四九	三二	一							
四三									

合 計	昭和二年											
	十二月	十一月	十月	九月	八月	七月	六月	五月	四月	三月	二月	一月
四、三六	四、〇三三	一、〇九八	三、四三三	三、〇〇二	二、八八八	二、四七	二、一六	一、九七	一、八〇	一、七〇	一、六〇	一、五〇
三、〇九六	二、八八一	二〇二	二〇二	三〇三	四七	二六	一六	一九	三四			
三、九六	三、五三三	一、〇一〇	三、五	二、七四	四六	二七	一六	一六〇	三三			

備考 本表中には移轉命令發令後取消を爲したるものを含まず。

第二節 協議竝直轄移轉

第一 協議移轉

本地區に於て協議移轉を爲したるもの建物百五十一棟、工作物七十四件、動産三十七件あり、内建物五十棟、工作物十件は官公署の所有に係り、事業實施の便宜上協議移轉を爲したるものにして、其の他の民有に屬する建物百一棟、工作物六十四件、動産三十七件は何れも移轉促進の爲、特に急施を要したるものなり。

第二十二地區 乙 建物其の他の工作物移轉



## 第二 直轄移轉

本地區に於て直轄移轉を爲したるもの建物四十棟、工作物十三件、動産一件あり、内建物二十四棟、工作物五件は官公署の所有に係り、其の希望に依り直轄施行を爲したるものにして、其の他の建物十六棟、工作物八件、動産一件は民有に係り、之が施行理由を述べれば、協議移轉に依る契約期限を經過し、督促するも容易に移轉せざるもの建物十四棟(後記参照)本人の希望に依るもの建物一棟及工作物一件、移轉命令後他人の換地に無斷建物及工作物を築造し、撤去方交渉するも之に應ぜざりしもの一棟、一件、自己の換地に工作物を建設し、受命建物の移轉を実施せざるを以て、工作物の撤去方を交渉したるものに應ぜざりしもの一件、事業施行の必要上急速移轉を要したるもの工作物四件、所有者不明にして移轉命令不能のもの工作物一件、其の他他人の換地に石材を堆積し、之が撤去方交渉するも應ぜざりしもの動産一件なり。

前記十四棟は金子某竝淨泉寺外十箇寺の所有に係り、築地三丁目十九、二十、二十二番本市所有元寺院境内共葬墓地土塀跡道路沿ひに連檐建築したる木造平家建にして、此の總延長六十五間餘、奥行三尺餘を有し、各棟間口三尺乃至六尺餘に仕切り、百七個の床店となしたるものなり、而して之を賃借し營業せる者百三名の多數に上り、築地魚市場の買出商人を唯一の顧客とし、毎朝數時間營業を爲す小賣商人にして、その異動頗る頻繁なるを以て、之が移轉は三箇月以上の豫告期間を必要とする移轉命令に依るを不便と認め、協議移轉に依り實施する方針の下に交渉を進めたる結果、建物所有者とは各協定調ひたるも、占有者は何れもその店舗に住所を有せず、且異動激しき爲、之が取纏めに甚だ困難を來したるが、前記金子某の盡力に依り、昭和三年八月八日に至り漸く全部の協定を見たるを以て、翌九月末日迄に移轉するの契約を締結したり。

然るに建物所有者たる寺院側に於ては、此の機會を利用し床店全部の取拂ひを爲す意圖を有するもの

、如く之を傳へ聞きたる各占有者は、萬一斯かる事態の實現を見むか、忽ち其の生業を剝奪せらるゝ死  
活問題なりとし、態度遽かに一變し一致結束して其の移轉を肯ぜず、契約期限を過ぐるも容易に轉出の  
莫業なく荏苒翌年に入りたり、事態斯の如く紛糾を來たし、從て各所有者に於ては容易に之が移轉を實



たるも、占有者は何れもその店舗に住所を有せず、且異動激しき爲、之が取纏めに甚だ困難を來したるが、前記金子某の盡力に依り、昭和三年八月八日に至り漸く全部の協定を見たるを以て、翌九月末日迄に移轉するの契約を締結したり。

然るに建物所有者たる寺院側に於ては、此の機會を利用し床店全部の取拂ひを爲す意圖を有するもの

、如く之を傳へ聞きたる各占有者は、萬一斯かる事態の實現を見むか、忽ち其の生業を剝奪せらるゝ死  
活問題なりとし、態度遽かに一變し一致結束して其の移轉を肯ぜず、契約期限を過ぐるも容易に轉出の  
模様なく荏苒翌年に入りたり、事態斯の如く紛糾を來たし、從て各所有者に於ては容易に之が移轉を實  
施するを得ざる實狀に至りたるに依り、整理施行者は最後の手段として關係者一同に對し、文書を以て  
之が實施方を督促し、尙履行せざるに於ては直接施行するの方針を定め、昭和四年三月十一日附を以て、  
同月十八日迄に現地を撤去する様通告を發したり。

然るに同期限を経過するも、尙且つ移轉を實施せざるに依り、已むを得ず同年三月二十日之を請負に  
附し、同年四月二十四日全部の工事を終へ、契約締結後九箇月にして漸く其の移轉を見るに至りたり。



### 第四章 損害補償

#### 第一節 補償金の決定

移轉命令の發令に次で移轉損害補償金の算定に著手せり、乃ち大正十五年十月建物及工作物の新築費並動産の種類、數量及營業休止に因る損害等の現地調査に著手、其の調査に基き移轉損害補償金の算定を爲し、同年十二月以降逐次補償審査會の審議決定を経たり、而して前記現地調査は昭和三年四月迄に終了し、又補償審査會に於ける補償金の決定も、回を重ねること四十四回(變更案の決定を含む)にして、同年五月一先終了したるが、其の後に至り尙既決補償金の變更を要するものあり、之が審議決定を爲すこと十六回に及び、翌四年七月全部の決定を了せり、尙補償審査會の決定を要せざるものに付ては、調査算定すると共に關係者と協定する等夫々處理を了したり。

補償審査會に於て決定したる補償金及其他の移轉料總額は、左表の如く四百六十六萬七千二十八圓六十一錢にして、内國負擔額二百八十一萬六千二百圓六十六錢、市負擔額百八十五萬八百二十七圓九五錢なり。

棟數	建物	延坪數	補償金	區分	金額	坪當
				内		譯



棟 建 數 物	延 坪 數	補 償 金	區 分		額 坪	當 譯
			金	坪		
四、五九	一〇八、六七・二 <sup>坪</sup>	四、六七、〇六・六 <sup>円</sup>	建物移轉料	二、七五、四九・六 <sup>円</sup>	二五・七 <sup>円</sup>	
			工作物移轉料	四三、八九・四	三・九八	
			造作移轉料	九、三七・三七	〇・九一	
			動産移轉料	二六、四六・八四	二・六四	
			休業補償	七〇、四九・八四	六・五四	
			雜費	三四二、三九・四一	三・二五	
			計	四、六七、〇八・六	四・四	

因に前表建物及工作物移轉料算定の基準となりたる新築費を示せば左の如し。

種 別	棟 數	延 坪 數	一棟當延坪數	新 築 費	坪當單價
木 造 建 物	四、五一	一〇六、二四・六 <sup>坪</sup>	二三・五 <sup>坪</sup>	七、〇四、一七・五 <sup>円</sup>	六六・二 <sup>円</sup>
石 造 平 家 建	一	三・〇〇	三・〇〇	六七六・二〇	二二五・四〇
煉瓦造平家建	二四	五七・八八	二・三六	八二、〇四・四七	一四・四二
同 二階建	二	三二・八六	一六・四三	七、四三・六四	二二五・一七

第二十二地區 乙 建物其の他の工作物移轉



第二十二地區 乙 建物其の他の工作物移轉

六四八

鐵骨造平家建	一〇	三〇・七〇	三・〇七	三、五二・六九	一〇一・四九
同 二階建	二	八四・三七	四二・一九	八、四六・五三	一〇〇・三六
鐵筋コンクリート造平家建	五	九四・二三	一八・八三	三、六四・七五	三六八・〇四
同 二階建	二	五・七〇	二五・八五	一、〇八三・九九	二四・二九
同 三階建	一	五・七三	五・七三	一五、七五・〇四	三〇三・六〇
同 四階建	一	九六・〇〇	九六・〇〇	一八八、〇〇・〇〇	三〇〇・〇〇
土藏造平家建	一	六・三三	六・三三	三、四一・九一	五五・一五
工作物	一	—	—	七三、九六・七五	七・二二
計	四、五六九	一〇八、八七・一一	三三・七九	八、三七五、二七・五五	七七・〇五

備考 工作物の坪當單價は其の新築費を建物總延坪數にて除したるものなり。  
前掲補償金及移轉料の總額を更に種別毎に分類して示せば左の如し。



一 補償審査會に於て決定せる補償金

棟 數	建 物	延 坪 數	補 償 金	區 分		額 坪	譯 當
				內	金		
四、二〇七				建物移轉料	二、五二、三五四・七	二六・二元	
				工作物移轉料	三二、七四・七	四・〇四	
				造作移轉料	九五、九九・六	〇・九	
				動產移轉料	二七、八九・七	二・八二	
				休業補償	六二、二七・五	七・〇二	
				雜費	三二、八七・三〇	三・三	
				計	四、三七一、〇六・三	四・四八	
		九七、〇四・二	四、三七、一〇六・三				

備考 補償金決定後火災に因り焼失したる建物二棟、此の既決補償金九百五十二圓三十三錢を二百十七圓七十九錢に変更したり。

第二十二地區 乙 建物其の他の工作物移轉



第二十二地區 乙 建物其の他の工作物移轉

六五〇

二 協議移轉に依る移轉料

棟 數	建 物	延 坪 數	移 轉 料	區 分 金		額 坪	譯 當
				内	外		
一五		四、五〇・八六 <sup>坪</sup>	一八、五四・七 <sup>円</sup>	建物移轉料 工作物移轉料 造作移轉料 動産移轉料 休業補償 雜費	計	一〇〇、〇四・五六 <sup>円</sup> 二四、四五・九四 三、三九・六六 二、四三・八七 二六、七四・八七 一六、五二・四七 一八、五四・七	一三、三三 <sup>円</sup> 五、七〇 〇、九 二、八 六、七〇 三、八 四、三

三 直轄移轉工事費並其の補償金

區	分	棟數又は件數	延坪數	補償金	工事費



三 直轄移轉工事費並其の補償金

區分	棟數又は件數	延坪數	補償金	工事費
建物	四棟	七九・三元	五三・二六	四、三六八・二五
工作物	三件			一〇、六五・二五
動產取片付	一件			四・七〇
計	四棟	七九・三元	五三・二六	五、五八・二〇

四 不許可建物の移轉料

建物	延坪數	移轉料	内		額坪	當
			區分	金		
建物	二七	六、五八・六五	建物移轉料	一〇〇、四三・二七	一五・三	一五・三
			工作物移轉料	六、四八・五	〇・九	〇・九
			雜費	三、八七・二	〇・六〇	〇・六〇
		二〇、六三・九七	計	一一〇、八三・九七	一六・八	一六・八

第二十二地區

乙 建物其の他の工作物移轉



件數	移轉料	區分		金額
		内	譯	
二	六四・三	工作物移轉料	一五・七五	一
		造作移轉料	一〇・七〇	
		動産移轉料	四〇・四	
		休業補償	五・五	
		雜費	六四・三	
		計	六四・三	

第二節 補償金の決定通知と其の交付

移轉損害補償金の決定通知は大正十五年十二月より開始し、爾來決定の都度之が通知を爲し、昭和三年五月を以て一先終了せるも、其の後に至り補償金の一部に變更を來したるものあり、之が變更通知は昭和四年七月に及びたり。

然るに前記通知書中住所不明の爲返送せられたるもの多數あり、右は何れも住所異動に因るものなるを以て、之等に對しては極力其の移轉先を調査の上判明したるものには夫々通知を爲し、全く所在不明なるものに付ては、昭和四年四月二十三日日本市公報に掲載し公示送達をなせり。

補償審査會に於て決定したる補償金及協議其の他の方法に依りたる移轉料は、昭和二年一月より之が交付を開始し、昭和六年三月末日迄に交付せし金額四百六十六萬六千三百十五圓三十九錢にして、内國

負擔額二百八十一萬六千二百圓六十六錢、市負擔額百八十五萬百十四圓七十三錢なり。

而して昭和五年三月即ち移轉完了迄に、要移轉建物の内、抵當權の設定ありたるもの三百四十八棟、此の件數三百七十一件ありしが、何れも抵當權者の同意を得て支拂を了したり。



を以て、之等に對しては極力其の移轉先を調査の上判明したるものには夫々通知を爲し、全く所在不明なるものに付ては、昭和四年四月二十三日日本市公報に掲載し公示送達をなせり。  
補償審査會に於て決定したる補償金及協議其の他の方法に依りたる移轉料は、昭和二年一月より之が交付を開始し、昭和六年三月末日迄に交付せし金額四百六十六萬六千三百十五圓三十九錢にして、内國

負擔額二百八十一萬六千二百圓六十六錢、市負擔額百八十五萬百十四圓七十三錢なり。  
而して昭和五年三月即ち移轉完了迄に、要移轉建物の内、抵當權の設定ありたるもの三百四十八棟、此の件數三百七十一件ありしが、何れも抵當權者の同意を得て支拂を了したり。

第二十二地區 乙 建物其の他の工作物移轉



## 第五章 移轉實施

## 第一節 實施狀況

本地區に於ける移轉工事は別表に示すが如く、昭和二年一月より同四年四月迄に完了する豫定にして、之が實施の概要を述べれば、昭和二年に於ては豫定より遅れたるも、同三年及四年に於ては工程順に進捗したるを以て、最終工期たる同四年四月迄に工事完了の豫定なりし四千五百六十九棟の内、四千五百六十一棟は豫定期間中に、殘餘八棟の内六棟は同年六月迄に、其の他の二棟は翌五年三月に、尙建物以外の工作物も同時期迄に移轉を了し、結局豫定に遅ること十一箇月にして全部の完了を見たり、之を年別に示せば左の如し。

## 昭和二年に於ける移轉

昭和二年一月より十二月に至る工事豫定棟數千九百九十八棟に對し、工事完了せるもの八百四十八棟、此の進捗歩合四割二分四厘にして、殘餘の千百五十棟は工事未了の儘翌年に繰越したり。

## 昭和三年に於ける移轉

昭和三年一月より十二月に至る既定の工事豫定棟數二千五百四十八棟、之に前年より繰越しに係る千五百十棟を加へたる合計三千六百九十八棟は、此の期に於て工事施行を要する棟數なり、内工事完了したるもの三千四百二十一棟、此の進捗歩合九割二分五厘にして、殘餘の二百七十七棟は工事未了の儘翌年に繰越したり。

## 昭和四年に於ける移轉

昭和四年一月より四月に至る既定の工事豫定棟數二十三棟、之に前年より繰越しに係る二百七十七棟

を加へたる合計三百棟は此の期に於て工事施行を要する棟數なり、内工事完了したるもの二百九十二棟にして、殘餘の八棟の内六棟は同年六月迄に之を完了し、其の他の二棟は工事未了の儘翌年に繰越たり。

昭和五年に於ける移轉



たるもの三千四百二十一棟、此の進捗歩合九割二分五厘にして、残餘の二百七十七棟は工事未了の儘翌年に繰越したり。

昭和四年に於ける移轉

昭和四年一月より四月に至る既定の工事豫定棟數二十三棟、之に前年より繰越しに係る二百七十七棟

を加へたる合計三百棟は此の期に於て工事施行を要する棟數なり、内工事完了したるもの二百九十二棟にして、残餘の八棟の内六棟は同年六月迄に之を完了し、其の他の二棟は工事未了の儘翌年に繰越たり。

昭和五年に於ける移轉

前年より工事未了の儘繰越しに係る二棟は、木挽町三丁目二十二番所在京橋郵便局廳舎にして、區劃整理街路敷に該當し、之が工事施行上昭和四年二月までにその移轉を要したるも、當時同町三丁目十五番ノ十七元東京府立工藝學校跡に新局舎を建築中に在りて、之が落成まで延期せられたき旨當該郵便局より申出ありたるを以て、道路關係者と協議の上之を承認したり、而して前記局舎の新築工事は、昭和

五年三月に入り其の竣工を見たるに依り、直に在來局舎の撤去に著手し同月之を完了したり。今前掲移轉を了したる建物を、更に移轉手續別に分類するときは、命令に依りたるもの四千三百七十八棟(内代執行を爲したるもの四十四棟を含む)協議に依りたるもの百五十一棟、直轄工事に依りたるもの四十棟なり。

移轉實施月別棟數表 (本表棟數は協議移轉及直轄移轉のものを含む)

年	月	移轉命令		補償金決定		工事完了豫定		工事完了	
		月別	累計	月別	累計	月別	累計	月別	累計
大正十五年 昭和元年	九月	一三	一三	一	一				
	十月	一	一四		一				
	十一月	一	一五		一				
	十二月	二三	三八	一	二				

第二十二地區

乙 建物其の他の工作物移轉



第二十二地區

乙 建物其の他の工作物移轉

昭和三年						昭和二年										
七	六	五	四	三	二	一	十	九	八	七	六	五	四	三	二	一
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
三	六	一	一	八	〇	八	二	三	三	一,〇九	三	五	三	四	四	一
四,四五三	四,四五〇	四,四四四	四,四四三	四,四四三	四,四四五	四,四四五	四,四四七	四,四二五	四,〇六二	二,九六三	二,五七二	一,九八六	一,八七七	一,六〇〇	一,三三三	九五六
五	三	四	二	一	五	八	二	六	三	一	五	三	三	三	一	一
四,四五三	四,四四八	四,四三六	三,九四四	三,八二二	三,五六一	二,九六三	二,六六七	二,三六六	二,〇〇〇	一,八八四	一,三三二	八〇八	六四三	四八八	四五二	三五九
九	三	三	五	五	四	一	五	二	二	三	二	三	三	二	一	一
四,四一〇	四,三三三	三,九七八	三,三五一	三,二二三	二,五五八	二,一〇三	一,九八八	一,九三三	一,六六七	一,三九五	一,〇八一	八七七	五〇九	四〇〇	三〇八	一八〇
一	二	一	一	二	一	四	一	三	三	七	九	〇	九	三	元	四
一,七五八	一,五八六	一,三六七	一,一九五	一,〇五三	九六	八〇	八八	六九	五九	四八	三五	二六	一六	六	六	二







第二節 代執行

移轉命令を受け指定期限を經過し、現場係員より工事實施方に付屢次誘導督勵を爲すも、容易に其の義務を果さざる爲、戒告を爲したるもの建物七百五棟、工作物七件ありたり。

戒告後尙其の義務を履行せざる爲、代執行を爲したるもの建物四十四棟、工作物二件あり、其の主な原因は、土地區劃整理事業に反對せるもの竝換地の指定に不服を稱へ、故意に移轉工事に著手せざりしもの三人建物三棟、借地權に關する係争の爲、自ら移轉すること困難なりしもの三人建物三棟、占有者との間に係争を生じ、自ら移轉し得ざりしもの十二人建物十二棟、全く自己の怠慢に因るもの二十五人、建物二十六棟及工作物二件なり。

行政執行法に依り處分したるものを表示すれば左の如し。

區	分	件	數	建	物	棟	數	工	作	物	件	數
戒告書を發したるもの			五〇六				七〇五					
戒告後自ら移轉したるもの			五〇三				六六一					
代執行を爲したるもの			四三				四					二
												五
												七

第三節 臨時收容家屋

移轉工事開始に伴ひ臨時收容家屋の必要に迫られたるを以て、昭和二年四月上柳原町四番に移動式住宅二十六棟、同物置四棟を設置し、同月より希望者に使用せしめ、爾來移轉工事の進捗に伴ひ使用希

望者増加したるを以て、順次増設を爲し昭和四年六月即ち移轉工事終了迄其の用に供したり、之が棟數及世帯數等を示せば左の如し。



第三節 臨時收容家屋

移轉工事開始に伴ひ臨時收容家屋の必要に迫られたるを以て、昭和二年四月上柳原町四番に移動式住宅二十六棟、同物置四棟を設置し、同月より希望者に使用せしめ、爾來移轉工事の進捗に伴ひ使用希望者増加したるを以て、順次増設を爲し昭和四年六月即ち移轉工事終了迄其の用に供したり、之が棟數及世帯數等を示せば左の如し。

設置場所	棟數		設置年月	撤去年月	住宅物置	期	間	住宅		物置		
	住宅	物置						世帯數	人員	世帯數	人員	
京橋區上柳原町四番	二六	四	昭和二、四	昭和四、五	自昭和二、四 至同四、五	同上	一〇三	七・八	一、二七	四・六	四	一・二五
同 築地二丁目十一番	二五	四	同 二、七	同 二、二	自同二、八 至同二、二	同上	五	一・四〇	一・七	七・二	一五	三・七五
同 築地三丁目八番	二	一	同 二、八	同 四、三	自同二、九 至同四、三	同上	六	八・八	四・五	四・三	一	一
同 築地一丁目九番	八	三	同 二、九	同 四、四	自同三、二 至同三、二	同上	七	二・三	八	一〇・五	六	二・〇〇
同 築地一丁目二十四番	五	二	同 右	同 右	自同四、一 至同四、一	同上	二	四・一〇	一・三	二〇・六〇	八	四・〇〇
同 築地一丁目十一番	一七	一	同 右	昭和三、六	自同三、九 至同三、九	同上	三	二・〇〇	一・七	一〇・八	一	一
同 南小田原町二丁目十四番	二	一	昭和二、〇	同 三、八	自同三、二 至同三、二	同上	七	三・五〇	三	一九・五	二	二・〇〇
同 明石町二十番	三	一	同 二、二	同 四、二	自同三、二 至同三、二	同上	一〇	三・三	三	一三・〇〇	二	二・〇〇
同 築地二丁目六、七、八番	二	五	同 三、二	同 四、六	自同四、三 至同四、三	同上	四	四・〇〇	二・五	二・六	二〇	四・〇〇

第二十二地區 乙 建物其の他の工作物移轉







第四節 宅地造成

本地區は地勢平坦なれ共、地區の東部は京橋川、櫻川及築地川、西部は汐留川、築地川支川、北部は三十間堀川を以て限られ、其の他地區の略中部を築地川の貫通するあり、爲めに橋梁の架設尠からず、

之等の關係上道路標高の變更多かりし爲、工事件數百五十四件三百二十一箇所に及べり、而して工事種別は假下水工最も多く五十一件九十箇所、其の他土留工四十六件七十二箇所内板柵工二十六件二十六箇所此の面坪二百二十三坪八一、間知石積工二十件四十六箇所此の面坪三百二十四坪九〇切土工三十四件四十八箇所、盛土工二十三件百一十一箇所なり。  
 工事著手は昭和二年一月南飯田町一番の土留工にして、それより建物移轉の進捗に伴ひ順次各種工事を施行せり、而して工事は逐次進捗し、同五年三月南小田原町三丁目九番の切土工を最後とし、百五十四件の工事を全部完了せり、之に因る宅地造成完了總面積は三萬九千四百四十四坪四合六勺なり、其の工事状況を見るに左の如し。

工事種別	工 事 工		數量	金額	内		營		請		負	
	件數	箇所			件數	箇所	件數	箇所	件數	箇所	數量	金額
假下水	五	九〇	三、九八・八〇 <sup>間</sup>	九、四七八・二八 <sup>円</sup>	一	一	一七・二〇 <sup>円</sup>	五〇	八九	三、九八・三〇 <sup>間</sup>	九、四六二・一八 <sup>円</sup>	
土留工	四	七二	五、〇八・七七 <sup>面坪</sup>	三、五八・三三	—	—	—	四六	七三	五、〇八・七七 <sup>面坪</sup>	三、五八・三三	
盛土工	三	二二	五、〇三・九五 <sup>立坪</sup>	一九、八三・〇三	二	一六	一、四八七・五〇	二二	九五	五、〇三・九五 <sup>立坪</sup>	一九、八三・〇三	
切土工	三	四八	二、四三・一四 <sup>立坪</sup>	一五、四八・八八	一五	一五	三、五三・九七	一九	三三	一、九七・〇八 <sup>立坪</sup>	二、八五・九一	
計	一四	三三	—	五〇、三六・三三	二七	三三	五、〇三・九七	二七	二八九	—	五〇、三六・三三	

第二十二地區 乙 建物其の他の工作物移轉



第六章 墳墓移轉

本地區に於て整理を要したる墓地は、本市所有元寺院境内共葬墓地七十八筆、私有墓地七筆、此の總面積二千四百七十六坪六合六勺にして、之に所在する墓碑一萬千六百五十四基なり。前記墓地の内、一般宅地の換地又は公共用地となりたる面積二千三百七十三坪七合四勺にして、之に所在し移轉を要したる墓碑一萬千六百六十二基なり。墓地の面積及墓碑の基數等を示せば左の如し。

管理寺院名	墓地所在町名及地番	區所分有	墓地總面積	總墓碑數	宅地の換地又は公共用地となりたる墓地面積	要移轉墓碑基數
本派本願寺 築地別院	築地三丁目一七 一九ノ一	私有	一九四・七二 <sup>坪</sup> 三〇六・二三	八五	五〇〇・天 <sup>坪</sup>	八五
明西寺	同 一九ノ五、二二ノ六 一一二	私有	二九・二〇 六・〇六	二六八	三五・一六	二六八
久寶寺	同 一九ノ六、四五	私有	六・七九	三三	六・七	三三
淨泉寺	同 一九ノ一三、四二	同	一五・二	二〇三	一五・二	二〇三
常念寺	同 一九ノ一四、一三〇 一二九	私有	三三・〇八 四・三	一九	二六・三	一九
妙延寺	同 一九ノ八 六四	私有	二四・二二	一〇〇	三六・三	一〇〇

海岸寺	同	市有	三五・〇九	一六	三五・〇九	一六
萬行寺	同	同	三三・六	二八	三三・六	二八
			一九ノ一、一二二			
			一九ノ五、二二ノ一四			
			三三・〇五	二九三	三四・〇五	二九三
			三三・六	二八	三三・六	二八
			三五・〇九	一六	三五・〇九	一六



常念寺	一九ノ一四、一三〇	市有	三〇・八	一九	二六・三	一九
妙延寺	一九ノ八	私有	四・三	二〇〇	三六・三	二〇〇
	六四		二四・二			

海岸寺	一九ノ一二、三四	市有	三五・九	一九	三五・九	一九
萬行寺	一九ノ一一、一二、一三	同	三・六	二八	二・七	二八
善永寺	一九ノ五、二二ノ一四、六五	同	三〇・五	一九三	三四・五	一九三
圓正寺	一九ノ九、七八	同	七五・六	三九	七五・六	三〇五
妙善寺	一九ノ四、四六、四八	同	五〇・七	三二	五〇・七	三二
眞光寺	一九ノ三、九〇ノ二、二五	同	九五・六	四五	九五・六	四五
淨立寺	一九ノ二、二二ノ二、八一	同	七三・九	二九	七三・九	二九
正覺寺	一九ノ一〇	同	三九・五	三三	三九・五	三三
福泉寺	一九ノ七、二〇	同	四四・六	一七	三三・三	一六七
延淨寺	二二ノ五、一二三	同	四・八	三三	三〇・八	一八六
延德寺	二二ノ九	同	一八・三	一五	一八・三	一七五
敬覺寺	二二ノ一〇、一一六	同	二〇・四	一五	二〇・四	一五八
源正寺	二二ノ一一、二七	同	三〇・八	二四九	三〇・八	二四一
福稱寺	二二ノ八	同	三〇・九	二〇五	三〇・九	二〇五
正法寺	二二ノ四	同	一五・八	一九三	一五・八	一九三
成勝寺	二二ノ一二、一七六	同	六・五〇	一九一	四五・五〇	一八〇
妙覺寺	二二ノ七	同	二九・三	三〇	二九・三	三〇
勝林寺	二二ノ二	同	三六・七	三四八	三六・七	三四八
延重寺	三〇	同	二六・九	三四	二六・九	三四

第二十二地區 乙 建物其の他の工作物移轉

六六三



第二十二地區 乙 建物其の他の工作物移轉

光西寺	光德寺	報身寺	淨德寺	淨久寺	善見寺	淨照寺	覺證寺	法光寺	安養寺	光源寺	稱揚寺	實相寺	善宗寺	法照寺	法重寺	西念寺	常榮寺	長專寺
築地三丁目三二	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
三六	四〇	四二	四九	五二	五三	五五	五七	六〇	六一	七〇	七一	七二	七三	八二、一〇九	八三、八六	八八	九一	九三、九五
市有	同	同	同	同	同	私	市	同	同	同	同	同	私	私	市	市	同	同
二〇・六	一三・一〇	一九・九	一九・九	四・五	三・八	五・八	三・五	四・七	四・七	三・七	三・七	三・七	三・七	二・八〇	五・九	四・六	三・二	二・三
一四	八	一七	二六	二七	一五	二四	一九	一九	一九	一五	一三	一三	一三	一六	三六	二六	一八	一四
二〇・六	一三・一〇	一九・九	一九・九	四・五	三・八	五・八	三・五	四・七	四・七	三・七	三・七	三・七	三・七	二・八〇	五・九	四・六	三・二	二・三
一四	八	一七	二六	二七	一五	二四	一九	一九	一九	一五	一三	一三	一三	一六	三六	二六	一八	一四

六六四

寶林寺 同

長安寺 同

同 同

二・九四

一三

一五・九

一三



法重寺	同	八三、八六	市有	四、六四	二六	四、六四	二六
西念寺	同	八八	同	三、三三	一六四	三、三三	一六四
常榮寺	同	九一	同	三、二四	一八九	三、二四	一八九
長專寺	同	九三、九五	同	二、九三	二〇四	二、九三	二〇四

長安寺	同	九七	同	一、五九四	一三	一、五九四	一三
寶林寺	同	九九	同	三、三七	一三	三、三六	一八〇
萬福寺	同	一〇一	同	二、九四	二八	二、九四	二八一
西照寺	同	一〇三	同	三、一四	一五	三、一四	一五
眞龍寺	同	一〇五	同	三、〇八	一七	二、八〇	一四
善行寺	同	一〇六、一〇八	同	一、七〇〇	三	一、七〇〇	三
正善寺	同	一一一	同	三、三三	一三	三、三六	一四
淨光寺	同	一一三、一一四	同	三、三四	一五	三、三四	一五
應善寺	同	一一八	同	二、〇四三	一六	二、〇四三	一五
妙泉寺	同	一二〇	同	二、六四	一三	二、六一	六
眞教寺	同	一二八	同	二、六四三	一三	二、六四三	一三
善林寺	同	一三一	同	四、〇三三	二〇八	四、〇三三	二〇八
計				二、四七六、六	二、六四	二、三、七、四	二、二、三

前記の内、常榮寺及善行寺以外の墳墓に對しては、昭和二年九月より墓碑其の他の現地調査に著手、其の調査に基き移轉料の算定を爲し、同年十月より翌三年八月迄に、墓地管理者と順次協議を遂げ、昭和二年十一月より同三年十月に至る間に於て夫々移轉することとなしたり、又常榮寺、善行寺の管理に係る墳墓は、前記各寺院の墳墓移轉に先だち、復興局と東京佛敎護國團との内協議に基き、大正十五年四月及七月に郊外に移轉を了したるものにして、之に對する移轉料交付の契約は昭和二年十一月及十二

第二十二地區 乙 建物其の他の工作物移轉



第二十二地區 乙 建物其の他の工作物移轉

月に於て夫々之を締結せり。  
 以上に要したる移轉料の總額二十一萬千七百三十三圓八錢、内國負擔額一萬八千八百四十圓九十二錢、市負擔額十九萬二千二百三十二圓十六錢にして、之か支拂は昭和四年一月迄に全部了したり。  
 前記契約及移轉完了豫定年月日並移轉料を管理寺院別に示せば左の如し。

管理寺院名	要移轉 墓碑數	靈埋 數	契 年 月 日	約 日	移轉完了 年 月 日	移轉料					
						墳 墓	工 作 物	雜 費	小 計		
本派本願寺	八三五	六、六四	昭和	三、八、三	昭和	三、一〇、五	二、七六・三元	一、八九・五	二、三五・四八	一六、〇〇六・四三	一九・一五
築地別院	二六八	一、九一	同	三、二、三	同	三、四、三〇	三、九三・三元	—	一、一七・七三	五、一二・二〇	一九・〇八
明西寺	三三二	二、〇四	同	三、二、六	同	三、五、三	四、九〇・八〇	三三・七五	一、四九・二四	六、五二・七九	一九・六〇
久實寺	二〇三	一、五四	同	三、二、三	同	三、五、一五	二、八一・二三	—	八四三・三七	三、六四・六〇	一八・〇〇
淨泉寺	一九八	一、三〇	同	三、三、六	同	三、五、三	二、九〇・二〇	六五・一六	七七・〇五	三、七〇・四一	一八・六九
常念寺	二〇〇	一、〇六	同	三、三、九	同	三、五、三	二、六八・八五	五八・八〇	六五七・二二	三、三四・八六	一六・七二
妙延寺	一六八	七二	同	三、四、五	同	三、六、一〇	二、五七・二四	一五三・三四	六三・八一	三、四二・三元	二〇・三
海岸寺	二一八	六六	同	三、四、五	同	三、四、三〇	一、六六・〇〇	二三・〇七	四八四・八〇	二、二三・八七	一八・〇〇
萬行寺	二九三	二、五八	同	三、五、七	同	三、六、一五	四、八六・〇四	一九・七八	一、二五・〇一	六、〇九四・八三	一〇・八〇
善永寺	三〇五	一、〇八	同	三、四、二	同	三、五、三	四、三九・四九	六一・四〇	一、〇九・八七	五、五〇・七六	一八・三
圓正寺	三二一	一、五八	同	三、四、七	同	三、七、三〇	三、〇〇・八六	四一・四四	七五〇・二三	三、七二・五三	一七・九七
妙善寺	四四五	二、四〇	同	三、四、三〇	同	三、八、三	六、六九・九七	一三八・五〇	一、六七・九九	八、五〇八・四六	一九・二二
眞光寺											

淨立寺	一元一	二、一四	同	三、五、二	同	三、五、三〇	四、三四・一六四	一四一・〇五	一、〇八五・四一	五、五六・一〇	一九・一三
正覺寺	二二二	一、一〇	同	三、五、三	同	三、七、二〇	三、三七一・一九	五四・一〇	八四一・八〇	四、七八・〇九	二二・二五
							二、四四・七	四〇・五	六〇六・六九	三、〇七三・九九	一八・四二



第二十二地區

乙 建物其の他の工作物移轉

淨見寺	善久寺	淨德寺	報身寺	光德寺	光西寺	延重寺	勝林寺	妙覺寺	成勝寺	正法寺	福稱寺	源正寺	敬覺寺	延德寺	延淨寺	福泉寺	正覺寺	淨立寺
一五八	二三七	二天	一四七	八七	一四	一三	一三八	一三〇	一八〇	一九三	二〇五	二四一	一五八	一七五	一八六	一六七	二二二	一九一
二、〇七五同	九三七同	五三三同	七六〇同	三三三同	六四五同	四六二同	一、九四九同	一、三三八同	一、一九七同	一、五五五同	八八五同	一、三六八同	七三三同	六七一同	一、〇七一同	九九九同	一、一〇二同	二、一四二同
三、一、二天同	二、三、三〇同	三、三、七同	三、五、七同	三、四、二同	三、二、一〇同	三、四、八同	三、五、六同	三、六、二同	三、五、三同	三、四、三同	三、四、三同	三、四、五同	三、三、二同	三、三、七同	三、一、三〇同	三、五、二同	三、五、二同	三、五、二同
三、四、三〇	三、三、三	三、四、三〇	三、六、三〇	三、七、一五	三、四、三〇	三、七、三〇	三、七、二〇	三、八、五	三、六、三〇	三、七、一〇	三、七、二〇	三、六、三〇	三、四、二〇	三、五、三	三、三、三	三、七、三〇	三、七、二〇	三、五、三〇
二、四七九・〇四	三、一四八・二〇	一、七九二・六八	二、一四一・九二	一、一〇五・二二	二、〇三八・九二	一、六五五・二八	五、八五五・六六	三、三三九・二〇	二、三三六・〇〇	三、〇九七・五六	二、六五七・二二	三、六三六・三〇	二、四五一・二〇	二、七六三・四二	二、九〇二・九二	二、四六六・七六	三、三七一・一九	四、三四一・六四
三八・九六	九五・二三	六・二〇	—	—	—	二九・二二	一四・四九	四四・五八	二二・四五	一・九〇	七・五五	二七・四〇	一五・七〇	二四・三二	一三・七二	四〇・五四	一四一・〇五	
六九・七六	八二・〇五	五七・八〇	六四二・五八	三三・五四	六一・五九	四九六・五八	一、四六三・九二	八〇九・八〇	五五九・〇〇	七七四・元	六六四・三〇	九〇九・〇八	六三二・八〇	六九〇・八六	九五〇・三三	六〇六・六九	八四二・八〇	
三、一、七、七六	四、一、五、三八	二、三、六、六八	二、七、四、五〇	一、四、五、〇・三二	二、六、五、〇・五二	二、一、八、一、〇・七	七、四、六、二、〇・七	四、〇、九、三、五・八	二、八、八、四、五	三、八、七、三、八・五	三、三、九、〇、六	四、五、七、二、七・八	三、〇、七、九、七・〇	三、四、七、八、五・〇	三、九、八、五、八・七	三、〇、七、三、九・九	四、七、八、〇、九	五、五、八、一、〇
一九・八六	一七・五三	一八・五五	一八・九四	一六・六七	一八・四一	一六・二八	二、二、四	一七・八〇	一五・六六	二〇・〇七	一九・二四	一八・九七	一九・四九	一九・八八	二、四三	一八・四一	二二・二五	一九・一三

眞光寺	妙善寺	圓正寺	淨立寺
四四五	三二	三〇五	一九一
二、四二〇同	一、五八八同	一、〇八八同	二、一四二同
三、四、三〇同	三、四、七同	三、四、二同	三、五、二同
三、八、三	三、七、三〇	三、五、三	三、五、三〇
六、六九五・九七	三、〇〇〇・八六	四、三九九・四九	四、三四一・六四
一三六・五〇	四一・四四	六一・四〇	一四一・〇五
一、六七三・九九	七五〇・三三	一、〇九九・八七	八四二・八〇
八、五〇八・四六	三、七九二・五三	五、五〇〇・七六	六〇六・六九
一九・二二	一七・九七	一八・二三	二、四三



第二十二地區

乙 建物其の他の工作物移轉

善照寺	二七四	二、六二昭和三、二、二昭和三、四、三〇	四、六二・四四	二七・六五	一、二五・八六	五、七九・九五	二二・一四
覺證寺	一六六	一、一七五同 三、三、二同 三、五、三一	二、三三八・八〇	六四・七二	五、四・七〇	二、九八・三三	一五・二五
法光寺	一七六	一、〇四同 三、四、七同 三、五、三〇	二、八八・三〇	七・〇三	七〇四・五八	三、五九・九一	二〇・一九
安養寺	一五四	八四七同 三、五、一六同 三、七、一〇	一、七九・一〇九	三〇・二四	四四七・七七	二、二九・一〇	一四・七三
光源寺	一三六	六四四同 三、五、一六同 三、七、一〇	一、六六・一六	—	四九九・五五	二、一六・四七	一七・一八
稱揚寺	一三三	六四二同 三、四、一〇同 三、六、一〇	一、九三・五四	一〇九・一〇	五七九・四六	二、六〇・一〇	二二・三〇
實相寺	一〇〇	一、八同 三、四、一七同 三、五、三一	二、四九・六四	一・六八	八七・七七	三三八・六九	一六・九三
善宗寺	一〇一	六六同 三、四、三同 三、六、一〇	一、六九・二八〇	一六・九三	五〇七・八四	二、二七・五七	二二・九六
法照寺	三三四	三、五五同 三、四、三〇同 三、六、三〇	四、九四・二四	一八・六〇	一、三二・〇六	六、一七・九〇	二二・二九
法重寺	二二六	一、〇七二同 三、二、二六同 三、四、三〇	三、四六・二八〇	六七・八七	八五・七〇	四、三九・三七	二〇・三五
西念寺	一六四	七七一同 三、二、二同 三、五、三一	二、三〇七・二〇	—	六九二・六六	二、九九・八六	二二・二九
常榮寺	一八九	六二二同 二、二、三九大正一五、七、二二	九五六・〇〇	—	—	九五六・〇〇	五・〇六
長專寺	一九二	一、五九同 三、三、三九昭和三、四、三〇	二、七三・〇八	三・五九	六八四・五三	三、四九・一八	一八・〇二
長安寺	一一二	五七七同 三、五、二同 三、五、二五	一、六六・六〇	二五・四五	五〇二・九八	二、一九・〇三	一九・六〇
寶林寺	一八〇	一、〇七九同 三、一、三六同 三、四、三〇	二、七九・八八	六二・六三	六九四・九七	三、五七・四八	一九・六五
萬福寺	二八二	二、二九八同 三、二、六同 三、五、一〇	四、三六・〇〇	—	一、三〇・七九	五、六六・二九	二〇・一五
西照寺	一六六	九〇同 二、一〇、三五同 二、一一、一〇	二、四二・四〇	三六・〇〇	七六・四二	三、一八・八二	二二・四二
眞龍寺	一四三	五六一同 三、二、六同 三、四、三〇	二、二七・八四	六〇・九三	六三・六三	二、八〇・四〇	一九・七四
善行寺	七三	二三同 二、二、七六正一五、四、五	四・五・〇〇	—	—	四・五・〇〇	五・九〇

正善寺	一三四	一、三三同	三、四、三四昭和三、五、三〇	二、二七・九〇	一〇・三〇	六三八・三七	二、七六・五七	二〇・七二
淨光寺	一五七	一、二六〇同	三、三、五同 三、四、三〇	二、七三・九二	一一・八五	五六八・四八	二、八四・二五	一八・一八



善行寺	七三	二二五同	二、二、七	大正五、四、五	四五〇〇	一	四三六・七	五、六、七	二〇・七
眞龍寺	一四三	五二同	三、二、六	同	二、二七・八四	六〇・九三	三、一、三	二、八〇〇・四〇	一九・七四
西照寺	一三六	九〇同	二、一〇、五	同	二、四二・四〇	三六・〇〇	七、六、四	三、一八三・八二	一三・四一

正善寺	一三四	一、三三同	三、四、四	昭和三、五、三〇	二、二七・九〇	一〇・三〇	六三八・七	二、七六・五七	二〇・七二
淨光寺	一五七	一、二〇同	三、三、五	同	二、七三・九二	一一・八五	五八・四八	二、八五四・二五	一八・一八
應善寺	九五	六〇同	三、三、三	同	一、三二・八〇	五・七四	四二四・八四	一、八〇三・三	一八・九
妙泉寺	六〇	三九同	二、二、七	同	九六・五七	—	二九・九七	一、二九五・五四	二・五九
眞教寺	一三三	一、一八三同	二、二、八	同	二、五六・八〇	一六・二五	六九二・八〇	三、一六五・八五	一四・五
善林寺	二〇八	一、九二同	二、二、三	同	三、七三・五五	七四・三〇	八八三・三	四、六九〇・一六	二二・五五
計	二、一三三	七、〇三三	同	同	二、三、九八・〇三	四、六三三・四九	四三、五三・五七	三、一〇七三・〇八	一八・九一

前記墳墓の移轉は、當局の指導督勵と管理寺院の努力と相俟つて、豫定の如く昭和三年十月迄に全部之が完了を見たり。

以上墳墓の内、善林寺、妙泉寺、法重寺、妙延寺、稱揚寺、圓正寺、法光寺の管理に係るものは各寺院の設けたる特設墓地に、其の他のものは郊外に、夫々移轉したり。

第二十二地區 乙 建物其の他の工作物移轉







圓七錢之に次ぎ、其の他は假本整理、道路後修、應急整理一工事の順序なり、是等の工事並支拂狀況を示せば左の如し。

工事一覽

種別	市水道局		市電氣局		東京會社		東京瓦斯株式會社		電話		計	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額
集一地區 計	六、四三・四	六、三七一・四	二、八〇〇	三、六六一・二〇	三、五三〇	二、八五一・六三	二、八三五・〇	八〇、〇九二・八九	—	—	五七〇	三、一七二・八三
電柱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
管線路	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
應急 整理 工事 計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
管線路	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
電柱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
假本 整理 計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
管線路	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
電柱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
其他	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
私有 管線 後修 計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
道路 後修 計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	四、〇〇〇	二、六八八・〇〇	三、三〇〇	四、四九七・五五	四、四〇〇	二、八八七・二六	三、三〇〇	一〇、〇九二・八九	—	—	三、三〇〇	一〇、〇九二・八九

備考 一 數量欄中には附帶工事數量は掲げざるも金額は合算せり。  
 二 事業者別合計欄數量には道路後修の數量を含まず。  
 丙 地下埋設物其他工作物整理







國市負擔區分

種別	水道		電氣		瓦斯	電話	計
	市	國	市	國			
一地區集計	國負擔	三七,四四・四九	一一,〇五四・九一	二四,七七八・九一	四八,〇五五・七三		一二二,三三四・〇四
	市負擔	二四,九四九・五五	七,三六九・九四	一六,五五九・二八	三三,〇三七・二六		八〇,八七六・〇三
應急整理一工事	國負擔	六二,三七四・二四	一八,四四四・八五	四一,二九八・一九	八〇,〇九二・八九		二〇二,一〇九・〇七
	市負擔	一,五〇一・五六	三八・二八	八三・一三	一六五・七一		八五・四一
假本整理	國負擔	一,五〇一・五六	九三・三五	五,〇六四・四一	一六五・七一		七,五六二・七六
	市負擔	一,五〇一・五六	九三・三五	五,八八八・五五	一六五・七一		八,四九一・二七
事業者	國負擔	六,八八八・〇〇	四,四六九・三九	一八,五六一・五四	四,四八二・一七		三四,二七八・一〇
	市負擔	六,八八八・〇〇	四,四六九・三九	一八,八三七・一六	四,四八二・一七		三四,五五三・七三
現金補償(個人拂)	國負擔	四七,六九・五二	九四四・〇二	一七,六七三・〇五	四五,五五五・五六		一一一,八五二・一五
	市負擔	二七,四八・三二	一,三三四・六七	一八,〇六三・四四	二六,七五五・九二		七三,四七二・三五
私有管線	國負擔	四,〇六八・一四	一,三五九・一八	一八,八九七・五〇	六,二三二・六四		三四,七三三・一五
	市負擔	四,〇六八・一四	一,三五九・一八	一八,八九七・五〇	六,二三二・六四		三四,七三三・一五
計	國負擔	一三,一九九・二四	一,五九三・三三	二四,六九四・三六	九,二九七・六三	一八七・〇三	四七,九七二・五六
	市負擔	一三,一九九・二四	一,五九三・三三	二四,六九四・三六	九,二九七・六三	一八七・〇三	四七,九七二・五六

第二十二地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

六七三







進捗歩合%	三	三	六	一五	三	100
計	三、三九、五	一六、七六、六	一四、四四、四	一七、〇一、四	六、八三、三	五、〇一、四
進捗	八、九、六	七、九、五	二、〇、〇	三、〇、〇	一、三、〇	一、三、〇

第二章 本枝管線處理

第一節 應急整理一地區集計

本地區に於ける當初契約數量は電柱四百二十七本、管線路二萬三千間七及之に關係せる各種工作物にして、此の整理費十九萬五千七十二圓六十六錢なり、而して假契約は東電工作物に關し大正十五年十二月三日締結したるを、工事は市電工作物に關し昭和二年四月三十日著手したるを、本契約は水道工作物に關し同年十二月二十一日締結したるを各々最初とし、それより逐次各事業者と契約を締結し工事を施行せり、其の各事業者別契約並工事狀況を示せば左の如し。

事業者	假契約年月日	本契約年月日	工事著手年月日	工事竣功年月日
市水道局	大正 五、三、一四	昭和 二、三、三	昭和 二、八、元	昭和 四、三、二四
市電氣局	昭和 二、三、五	昭和 三、九、一五	昭和 二、四、三〇	昭和 五、二、一五
東京電燈株式會社	大正 五、三、三	昭和 三、九、四	昭和 二、五、二	昭和 五、三、一
東京瓦斯株式會社	昭和 二、九、三〇	昭和 三、四、九	昭和 二、三、五	昭和 五、九、一〇

工事施行中設計變更を要したる箇所八十六件ありたる結果、數量に於て増加したる爲工事費に於て七千百十七圓四十一錢の増額を爲せり、其の設計變更狀況を見るに左の如し。



第二十二地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

六七六

種別	電		柱		管線		路	計
	數量	金額	數量	金額	數量	金額		
當初契約	四七 <sub>本</sub>	二七、四九 <sub>本</sub> ・三	三三、〇〇 <sub>間</sub> ・七	一六七、七三 <sub>本</sub> ・二	一五、〇七 <sub>本</sub> ・六			
設計變更後(精算)	五〇	三二、七二 <sub>本</sub> ・八	二七、九六 <sub>間</sub> ・八	一七〇、〇七 <sub>本</sub> ・四	二〇、一七 <sub>本</sub> ・〇			
差引増△減	一四三	四、八三 <sub>本</sub> ・四	四、九六 <sub>間</sub> ・一	二、九三 <sub>本</sub> ・九	七、一七 <sub>本</sub> ・四			

尙工事竝支拂狀況を示せば左の如し。

工事進捗狀況

年度	電		柱		管線		路	計	歩合%
	數量	金額	數量	金額	數量	金額			
昭和二年	一五 <sub>本</sub>	八、六六 <sub>本</sub> ・六	四、〇九 <sub>間</sub> ・二	二九、八三 <sub>本</sub> ・〇	三、五三 <sub>本</sub> ・七			一九	
昭和三年	一九	二二、一八 <sub>本</sub> ・二	一一、八四 <sub>間</sub> ・二	八〇、三九 <sub>本</sub> ・七	九二、五七 <sub>本</sub> ・六			四六	
昭和四年	一八	一〇、九二 <sub>本</sub> ・五	九、〇四 <sub>間</sub> ・四	四七、一六 <sub>本</sub> ・七	五八、〇六 <sub>本</sub> ・三			二九	
昭和五年	二六	四〇、一七 <sub>本</sub> ・三	二、九三 <sub>間</sub> ・〇	二二、六六 <sub>本</sub> ・三	一三、〇九 <sub>本</sub> ・三			六	
計	五七〇	三三、一七 <sub>本</sub> ・八	二七、九六 <sub>間</sub> ・八	一四〇、〇七 <sub>本</sub> ・四	二〇、一七 <sub>本</sub> ・〇			一〇〇	

支拂狀況

年度	國負擔	市負擔	計	歩合%
年				



支拂狀況

年 度	國 負 擔	市 負 擔	計	步 合 %
昭和二年	一元、五四・五三	一九、六七・六九	四九、二四・三 <sup>円</sup>	一五
昭和三年	二六、九三・六二	一七、四二・四〇	四四、八六・〇一	一三
昭和四年	二一、〇〇・九二	八、〇七・二六	二九、〇八・一八	一〇
昭和五年	五、七五・九六	三、一六・六六	八、九二・六二	三
計	三三、三四・〇四	八〇、八六・〇三	一一四、二〇・〇七	一〇〇

第一 水道

一 契 約 大正十五年十二月十四日管線路五千九百七十一間七及關係工作物に對し整理費六萬五百四圓六十錢を以て整理に關する假契約を爲し、更に昭和二年十二月二十一日之が本契約を締結したり、右整理費の國市負擔區分は國三萬六千三百二圓七十六錢、市二萬四千二百一圓八十四錢なり。

二 工 事 大正十五年十二月十四日假契約成立せるを以て昭和二年六月二十三日最初の工事要求を爲し、同年八月十九日工事に著手し、それより各種工事を逐次施行したり、然るに施行中四件の設計變更を爲したる結果、新設四千七百五十七間五、撤去九百九十八間七、埋殺六百八十七間二、計六千四百四十三間四となり、管線路に於て四百七十間一七の増加を爲したり、而して昭和四年三月二十四日を以て總工事を完了し、同五年五月八日竣功検査を了したり、其の進捗狀況を示せば左の如し。

第三十二地區

丙 地下埋設物其他工作物整理



第二十二地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

年 度	管 線		路 額	歩 合 %
	數	量 金		
昭 和 二 年	二、一六〇・二	二、一〇五・三		
昭 和 三 年	四、一八三・二	四、一六六・三		
計	六、四四三・四	六、二七一・四		一〇 突 三

三 精 算 本地區に於ける契約金額六萬五千四百六十錢、内國負擔三萬六千三百二十六錢、市負擔二萬四千二百一圓八十四錢にして、第一回前渡金は昭和三年五月九日、第二回前渡金は同五年二月三日支拂手續を爲し、同五年九月一日精算を完了したり。

設計變更の結果、精算金額六萬二千三百七十四圓十四錢となり、契約金額に比し千八百六十九圓五十四錢の増額を見たり、之を工種別に見るに新設三千七百六十一圓三錢額三萬六千五百十圓五錢、移設九百九十六圓二錢額二萬六千九百九十九圓八十八錢、其他金額五千六百六十四圓二十一錢にして、國市負擔區分は國三萬七千四百二十四圓四十九錢、市二萬四千九百四十九圓六十五錢なり、其の精算狀況を示せば左の如し。

負擔別對照表

負擔 區 分	潰 地 面 積	比 率 %	契 約 金 額	精 算 金 額	差 引 増 △ 減



負擔別對照表

負擔區分	潰地面積	比率%	契約金額	精算金額	差引増△減	國負擔			市負擔			合計
						幹線街路費	運河費	計	補助線街路費	土地整理費	小公園費	
	二,〇〇六.六 <sup>坪</sup>	四	二九,六四七.二五 <sup>円</sup>	三〇,五三三.三三 <sup>円</sup>	九六.〇八 <sup>円</sup>							
	四,九〇三.六六	二	六,六五五.五一	六,八六一.一六	一〇五.五五							
計	三六,一〇.三六	六	三六,三〇二.七六	三七,四四〇.四九	一,一三二.七三							
	四,七五七.二六	二	六,六五五.五一	六,八六一.一六	一〇五.六五							
	一一,三九.八九	二六	一五,七三二.〇〇	一六,二二七.二七	四八六.〇七							
	一,五四二.七三	三	一,八五二.三三	一,八七二.三三	五六.〇九							
計	一七,六九.〇〇	四	二四,二〇一.八四	二四,四九三.六一	七四七.八一							
合計	四三,七九〇.三六	一〇〇	六〇,五〇四.六〇	六三,三三四.一四	一,八九九.五四							

第二十二地區 丙 地下埋設物其他工作物整理



第二十二地區

丙 地下埋設物其他工作物整理

六八〇

補償金對照表

工種	契約金額	精算金額	差引増△減
既設工作物と整理工作物と一致せる部分	三〇、九〇・四五	三三、〇六・三	二、一五〇・六八
過不足分(一致せざる部分)	二四、三五・五三	二四、一四・八〇	△ 二〇九・七三
累計	一、六五・四八	二、一八・五三	四六三・〇五
小計	五、九四・〇二	五、三八・四六	二、四四・〇〇
附帯工事分(假工事を含む)	三、五八・一四	三、〇五・六八	△ 五三四・四六
補償額計	六、五〇・一六	六、三三・一四	一、八六・〇二

第二電氣

(イ) 市電

一 契約 昭和二年三月十五日電柱百六十一本、地中線五千九百九十間及關係工作物に對し、整理費一萬七千九百三圓七十三錢を以て整理に關する假契約を爲し、更に同三年九月十五日之が本契約を締結したり、右整理費の國市負擔區分は國一萬七百四十二圓二十四錢、市七千六百六十一圓四十九錢なり。

二 工事 昭和二年三月十五日假契約成立せるを以て同月十七日最初の工事要求を爲し、同年四月三十日工事に著手し、それより各種工事を逐次施行したり、然るに施行中二十九件の設計變更を爲したる結果、電柱新設百三十二本、撤去八十六本、計二百十八本、地中線新設三千六百十間三、撤去四千二百六十二間一、計七千八百七十二間四となり、電柱に於て五十七本、地中線に於て二千六百八十二間四の増加を爲したり、而して昭和五年十一月十五日を以て總工事を完了し、同年十二月十日竣功検査を

了したり、其の進捗狀況を示せば左の如し。

年度	電柱	地中線	計	歩合%



月三十日工事に著手し、それより各種工事を逐次施行したり、然るに施行中二十九件の設計變更を爲したる結果、電柱新設百三十二本、撤去八十六本、計二百十八本、地中線新設三千六百十間三、撤去四千二百六十二間一、計七千八百七十二間四となり、電柱に於て五十七本、地中線に於て二千六百八十二間四の増加を爲したり、而して昭和五年十一月十五日を以て總工事を完了し、同年十二月十日竣功検査を

了したり、其の進捗状況を示せば左の如し。

年 度	電 柱		地 中 線		計	歩 合 %
	數 量	金 額	數 量	金 額		
昭 和 二 年	五 <sup>本</sup>	九八・五二	一、〇〇・〇	二、〇六・九一	三、〇五・四三	一七
昭 和 三 年	三	一、〇六・七五	二、六六・〇	五、〇九・六四	六、〇八・三九	三
昭 和 四 年	七	一、〇八・二〇	二、八〇・四	五、四六・五五	六、六〇・七五	三
昭 和 五 年	二六	四〇三・七三	一、二四・〇	二、二四・五	二、六七・二六	一四
計	二八	三、六六一・二〇	七、八三・四	一四、七三・三	一八、四四・五	一〇〇

三 精 算 本地區に於ける契約金額一萬七千九百三圓七十三錢、内國負擔一萬七百四十二圓二十四錢、市負擔七千六百一十一圓四十九錢にして、第一回前渡金は昭和三年十一月二日支拂手續を爲し、同六年一月十四日精算を完了したり。

設計變更の結果、精算金額一萬八千四百二十四圓八十五錢となり、契約金額に比し五百二十一圓十二錢の増額を見たり、之を工種別に見るに新設電柱四十六本、金額三千五十六圓十三錢、移設電柱八十六本、地中線二千四百九十四間八、金額一萬四千七百四十六圓四十錢、其の他金額六百二十二圓三十二錢にして、國市負擔區分は國一萬千五百四十四圓九十一錢、市七千三百六十九圓九十四錢なり、其の精算狀況を示せば左の如し。



第二十二地區

丙 地下埋設物其他工作物整理

負擔別對照表

負擔區分	潰地面積	比率%	契約金額	精算金額	差引増△減
國負擔	三、〇六・六 <sup>坪</sup>	四	八、七二・八 <sup>円</sup>	九、〇八・一 <sup>円</sup>	二五五・二五 <sup>円</sup>
幹線街路費	四、九三・六	二	一、九六・四	二、〇六・七	五七・三
運河費	二六、二〇・空	六	一〇、七四・二	一一、〇四・九	三二二・七
補助線街路費	四、七五・二	二	一、九六・四	二、〇六・七	五七・三
土地整理費	二、七九・九	二	四、六四・九	四、七〇・四	一三五・四九
市負擔	一、五四・三	三	五七・二	五五・二	一五・六
小公園費	一七、六九・九	四	七、六一・四	七、三六・四	二〇八・〇
合計	四、七〇・五	一〇〇	一七、九三・七	一八、四三・八	五二二・一

補償金對照表

工種	契約金額	精算金額	差引増△減
既設工作物と整理工作物と一致せる部分	一五、五〇・五 <sup>円</sup>	一四、七四・四 <sup>円</sup>	七五八・九五 <sup>円</sup>
過不足分(一致せざる部分)	一、五九・九	三、〇六・三	一、五六一・四
累計する分	一六・四	—	一六一・四
小計	一七、〇六・八	一七、八〇・七	七三三・九

附帶工事分(假工事を含む)  
補償額計

八五二・五  
一七、九〇三・七

六三三・三  
一八、四三四・八

△

一三〇・三  
五二二・三



過不足分(一致せざる部分)	一、五九、六九	四、七六、四〇	△	七、八、九五
累計	一、六、一四	三、〇六、一三	△	一、五、六、四
小計	一七、〇三、一八	一七、〇三、一三	△	七、二、三、五

附帯工事分(假工事を含む)	八五、五五	六三、三三	△	一、〇、一、三三
補償額計	一七、〇三、一三	一八、四、四、八		五、三、一、三

(ロ) 東電

一 契約 大正十五年十二月三日電柱二百六十六本、地中線四百四間及關係工作物に對し、整理費二萬九千四百三十六圓二十五錢を以て整理に關する假契約を爲し、更に昭和三年九月四日之が本契約を締結したり、右整理費の國・市負擔區分は國一萬七千六百六十一圓七十五錢、市一萬千七百七十四圓五十錢なり。

二 工事 大正十五年十二月三日假契約成立せるを以て同日最初の工事要求を爲し、昭和二年五月二日工事に著手し、それより各種工事を逐次施行したり、然るに施行中二十件の設計變更を爲したる結果、電柱新設百七十四本、撤去百七十八本、計三百五十二本、地中線新設三百八十八間、撤去三百七十八間、計七百六十六間となり、電柱に於て八十六本、地中線に於て三百六十二間の増加を爲したり、而して昭和五年二月一日を以て總工事を完了し、同年六月十七日竣功検査を了したり、其の進捗狀況を示せば左の如し。

工事進捗狀況

年 度	電 柱		地 中 線		計	歩 合 %
	數 量	金 額	數 量	金 額		
昭和二年	一〇〇本	七、六八、一四	一五一間	二、五五、三三	一〇、二五、四五	二五

第二十二地區 丙 地下埋設物其他工作物整理



第二十二地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

昭 和 三 年	昭 和 四 年	計
一三五	一二七	二五三
二、一九・五四	九、六三・九五	二八、五二・五三
三五	二九〇	三二六
五、三〇・三六	四、八五・八九	一〇、一六・二五
一六、四八・九〇	一四、五三・八四	三一、〇二・七四
四〇	三五	七五

六八四

三 精 算 本地區に於ける契約金額二萬九千四百三十六圓二十五錢、内國負擔一萬七千六百六十一圓七十五錢、市負擔一萬千七百七十四圓五十錢にして、第一回前渡金は昭和三年十一月五日支拂手續を爲し、同五年八月二十五日精算を完了したり。

設計變更の結果精算金額四萬千二百九十八圓十九錢となり、契約金額に比し一萬千八百六十一圓九十四錢の増額を見たり、之を工種別に見るに、新設電柱二本、地中線六十七間五金額三千九十二圓四十錢、移設電柱百七十二本、地中線二百十五間五金額三萬四千九百六十二錢、其他金額四千九百九十六圓十七錢にして、國市負擔區分は國二萬四千七百七十八圓九十一錢、市一萬六千五百十九圓二十八錢なり、其の精算狀況を示せば左の如し。

負擔別對照表

負 擔 區 分	潰 地 面 積	比 率 %	契 約 金 額	精 算 金 額	差 引 増 △ 減
幹線街路費	二、一〇六・六九	四	一四、四三・七六	一〇、一三六・二一	五、八三・三五
國負擔 運河費	四、九〇三・九六	二	三、三三・九一	四、五四二・八〇	一、一〇四・八九
計	二六、二一〇・五五	六	一七、七六二・五五	一四、七七八・九一	七、一七二・六四
補助線街路費	四、七五七・二六	二	三、二二七・九一	四、五四二・八〇	一、一〇四・八九

市 負 擔	土地整理費	小公園費
二、三九九・八九	一、五二二・七三	一、〇七三・五三
一、〇七三・五三	一、二三八・九五	三、〇八四・一一
三	七、六五三・四二	三五・六六
三	八八三・〇九	四、四四一・七六



國負擔	運河費	四、九〇三・九六	二	三、一三七・九六	四、五四二・八〇	一、三〇四・八一
計		三六、一一〇・五五	六〇	一七、七六一・五五	二四、七六・九六	七、一七二・六六
	補助線街路費	四、七五七・二六	二	三、一三七・九六	四、五四二・八〇	一、三〇四・八一

市負擔	土地整理費	二、三九九・八九	二六	七、六五三・四二	一〇、七七七・五三	三、〇八四・一一
	小公園費	一、五四二・七三	三	八八三・〇九	一、三三六・九三	三五五・六六
計		一七、三九九・六〇	四〇	二一、七四〇・五〇	一六、五一九・六八	四、七四〇・七六
合計		四三、七九〇・五五	一〇〇	二九、四四六・三五	四一、二九八・二九	一一、八六一・九四

補償金對照表

工種	契約金額	精算金額	差引増△減
既設工作物と整理工作物と一致せる部分	二四、九六・七二	三四、〇〇九・六一	九、〇七〇・九〇
過不足分(一致せざる部分)	二、〇〇三・六六	三、〇九二・四〇	一、〇八八・七四
累計する分	—	一三六・〇一	一三六・〇一
小計	二六、九七〇・三六	三七、三九八・〇三	一〇、四二五・六五
附帯工事分(假工事を含む)	二、四九三・八七	四、〇六〇・二六	一、五六六・三九
補償額計	二九、四六四・二三	四一、二九八・二九	一一、八六一・九四

第三 瓦 斯

一 契約 昭和二年九月三十日管線路一萬千四百三十五間及關係工作物に對し、整理費八萬七千二百二十八圓八錢を以て整理に關する假契約を爲し、更に同三年四月九日之が本契約を締結したり、右整理費の國市負擔區分は國五萬二千三百三十六圓八十五錢、市三萬四千八百九十一圓二十三錢なり。

二 工事 昭和二年九月三十日假契約成立せるを以て同年十月二十三日最初の工事要求を爲し、

第二十二地區 丙 地下埋設物其他工作物整理



第二十二地區

丙 地下埋設物其他工作物整理

六八六

同年十二月五日工事に著手し、それより各種工事を逐次施行したり、然るに施行中三十三件の設計變更を爲したる結果、新設六千三百五十一間、撤去三千六百四十間七、埋殺二千八百四十三間三、計一萬二千八百三十五間となり、管線路に於て千四百間の増加を爲したり、而して昭和五年九月十日を以て總工事を完了し、同年十月一日竣功検査を了したり、其の進捗状況を示せば左の如し。

年 度	管 線 路		歩 合 %
	數 量	金 額	
昭 和 二 年	六九四間	四、〇〇四・六四	五
昭 和 三 年	四、五六〇	二六、八三三・四四	六
昭 和 四 年	五、八九六	三六、八四三・七三	四
昭 和 五 年	一、六八五	一〇、四二二・〇八	三
計	二、八三五	八〇、〇九三・九	一〇

三 精 算 本地區に於ける契約金額八萬七千二百二十八圓八錢、内國負擔五萬二千三百三十六圓八十五錢、市負擔三萬四千八百九十一圓二十三錢にして、第一回前渡金は昭和三年五月十八日、第二回前渡金は同四年二月五日支拂手續を爲し、同五年十一月十五日精算を完了したり。

設計變更の結果精算金額八萬九千二百八十九圓八十九錢となり、契約金額に比し七千三百三十五圓十九錢の減額を見たり、之を工種別に見るに新設三千五百八十五間二金額一萬九千五百二十六圓三十錢、移設三千三百三十三間金額四萬九千五百五圓六十一錢、其他金額一萬四千四百六十圓九十八錢にして、國市負擔區分は國四萬八千五百五圓七十三錢、市三萬二千三百七十七圓十六錢なり、其の精算状況を示せば左の如し。

負擔別對照表

負擔區分	潰地面積比率%	契約金額	精算金額	差引増△減



を見たり、之を工種別に見るに新設三千五百八十五間二金額一萬九千五百二十六圓三十錢、移設三千三百三十三間金額四萬九千五百六十一錢、其の他金額一萬四千四百六十圓九十八錢にして、國市負擔區分は國四萬八千五百五十三圓七十三錢、市三萬二千三百七十七圓十六錢なり、其の精算狀況を示せば左の如し。

負擔別對照表

負擔區分	潰地面積	比率%	契約金額	精算金額	差引増△減
國負擔	二、二〇六・六九	四	四二、七四一・七六	三九、一四五・五二	△ 三、四九六・二四
運河費	四、九三三・九六	二	九、五九五・〇九	八、八二〇・二二	△ 七三四・八八
計	二六、一一〇・六五	六	五二、三三六・八五	四八、〇五五・七三	△ 四、二八一一・一二
市負擔	四、七五七・二六	二	九、五九五・〇九	八、八二〇・二二	△ 七三四・八八
補助線街路費	二、三九九・八九	三	三、六七九・三〇	二、〇八四・二六	△ 一、八五五・〇四
土地整理費	一、五四二・七三	三	二、六六六・八四	二、四〇二・七九	△ 二二四・〇五
小公園費	一七、六九七・九〇	四	四、八二一・三三	三、〇三七・二六	△ 二、八四四・〇七
計	四三、七九〇・五五	二〇	八七、三三八・〇八	八〇、九三二・八九	△ 七、三五一・一九
合計					

補償金對照表

工種	契約金額	精算金額	差引増△減
既設工作物と整理工作物と一致せる部分	七〇、二三〇・五	六、三九一・九四	△ 八、四九〇・二二
過不足分(一致せざる部分)	一、九七三・六	六、九一・九七	△ 五、〇五四・六一
累計	七二、三〇四・一	九、〇一五・六八	△ 一、六四・八三
小計	七二、三〇四・一	七、四七・五九	△ 一、六〇・空
附帶工事分(假工事を含む)	七、九九・八二	二、四四五・三〇	△ 五、四八四・五二
補償額計	八七、三三八・〇八	八〇、九三二・八九	△ 七、三五一・一九

第二十二地區 丙 地下埋設物其他工作物整理



第二節 應急整理一工事

本地區に於ける應急整理一工事は件數五十三件整理費八千四百十九圓十七錢にして、昭和二年二月二十五日東京電燈株式會社關係工作物整理に著手したるを最初とし、それより逐次各種工事を施行せり、之を事業者別に見る時は、市水道局二十七件金額千五百一圓五十六錢、市電氣局四件金額九百十三圓三十五錢、東京電燈株式會社十七件金額五千八百三十八圓五十五錢、東京瓦斯株式會社五件金額百六十五圓七十一錢なり、其の工種別及工事並支拂狀況を示せば左の如し。

工 事 種 別

種 別	水 道		市 電		東 電		瓦 斯		計	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額
電 柱	1	1.00	3	9.96	3	7.05	1	1.00	3	7.05
管線路	7	1,501.56	3	9.96	1,658.82	27	1,522.24	7	1,768.04	
道路工										
事支障										
其他										
計		1,501.56		9.96		1,768.04		1,522.24		1,522.24
建物移										
轉支障										
其他										
計										
電 柱										
其他										
計										
出入口										
支障										
其他										
計										

電 柱	1	1.00	3	9.96	3	7.05	1	1.00	3	7.05
管線路	7	1,501.56	3	9.96	1,658.82	27	1,522.24	7	1,768.04	
其他										
計		1,501.56		9.96		1,768.04		1,522.24		1,522.24



年 度	電 柱		管 線		其 他		計	歩 合 %
	數量	金額	數量	金額	數量	金額		
大正十五年	1本	40,623	1間	10,761	1ヶ所	10,761	10,761	1
昭和元年	5	4,032	1	3,961	1	47,558	47,558	6
昭和二年	8	19,034	70	945,531	16	2,919,251	2,919,251	39
昭和三年	8	1,909,912	47	1,253,477	9	4,818,033	4,818,033	57
昭和四年	1	4,290,877	7	1,788,040	3	1,985,511	1,985,511	2
昭和五年	4	4,290,877	7	1,788,040	3	8,449,177	8,449,177	100
計	25	14,965,325	133	11,780,264	43	10,761	26,745,810	100

工事進捗状況

合 計	電 柱		管 線		其 他		計	歩 合 %
	數量	金額	數量	金額	數量	金額		
電柱	25	14,965,325	133	11,780,264	43	10,761	26,745,810	100
管線	133	11,780,264	133	11,780,264	43	10,761	23,560,525	88
其他	43	10,761	43	10,761	43	10,761	21,000,000	79
計	25	14,965,325	133	11,780,264	43	10,761	26,745,810	100

支 入 障 口	電 柱		管 線		其 他		計	歩 合 %
	數量	金額	數量	金額	數量	金額		
電柱	25	14,965,325	133	11,780,264	43	10,761	26,745,810	100
管線	133	11,780,264	133	11,780,264	43	10,761	23,560,525	88
其他	43	10,761	43	10,761	43	10,761	21,000,000	79
計	25	14,965,325	133	11,780,264	43	10,761	26,745,810	100



支拂狀況

年度	國 負 擔	市 負 擔	計	歩 合 %
昭和二年	—	10,760 <sup>円</sup>	10,760 <sup>円</sup>	一
昭和三年	—	1,507,330	1,507,330	七
昭和四年	8,564	4,110,330	4,966,712	五
昭和五年	—	1,918,050	1,918,050	三
未 計	8,564	7,562,760	8,499,270	一〇〇

第一 水道

工事は昭和二年五月南小田原町四丁目七番地先に於ける消火栓撤去工事を最初とし、それより逐次各種工事を施行し同五年八月南小田原町一丁目一番地先より同町四丁目一番地先に於ける消火栓移設工事を最終とし二十七件の工事を全部完了せり、而して之に要したる整理費は千五百一圓五十六錢なり、其の工事支拂狀況を示せば左の如し。

工事進捗狀況

年 度	消 火 栓 其 他	計	歩 合 %
—	—	—	—



の工事並支拂狀況を示せば左の如し。

工事進捗狀況

年 度	消 火 栓 其 他		計	歩 合 %
	數 量	金 額		
昭 和 二 年	一ヶ所	三・九六	三・九六	三
昭 和 三 年	一五	九三・〇五	九三・〇五	三
昭 和 四 年	八	三九・〇〇	三九・〇〇	三
昭 和 五 年	三	一九・五	一九・五	三
計	二七	一五〇・五	一五〇・五	一〇〇

支拂狀況

年 度	市 負 擔	歩 合 %
昭 和 四 年	四七・〇一	二
昭 和 五 年	二四・一六	一
未 昭 和 計	一五・一〇	一〇〇

第二十二地區 丙 地下埋設物其他工作物整理



第二電氣

(イ) 市電

工事は昭和四年四月采女橋際に於ける變壓塔移設工事を最初とし、それより逐次各種工事を施行し、同五年一月築地二丁目二十二番地先に於ける電柱移設工事を最終とし、四件の工事を全部完了せり、而して之に要したる整理費は九百十三圓三十五錢なり、其の工事並支拂狀況を示せば左の如し。

工事進捗狀況

年 度	電 柱		管 線 路		其 の 他		計	歩 合 %
	數量	金額	數量	金額	數量	金額		
昭 和 四 年	六	八八・九〇 <sup>円</sup>	三・三	九・九八 <sup>円</sup>	一 <sup>ヶ所</sup>	八四・四七 <sup>円</sup>	九三・三五 <sup>円</sup>	一〇〇
計	六	八八・九〇	三・三	九・九八	一	八四・四七	九三・三五	一〇〇

支拂狀況

年 度	國 負 擔		市 負 擔		計	歩 合 %
	金額	金額	金額	金額		
昭 和 四 年	三三・二六 <sup>円</sup>	八四・四七 <sup>円</sup>	六四・六〇	八四八・七五 <sup>円</sup>	六四・六〇	九三
昭 和 五 年	三三・二六	八七九・〇七	八七九・〇七	二二三・三三	二二三・三三	一〇〇
計	三三・二六	一七二三・五四	一五二三・六七	一七二三・三三	一五二三・三三	一〇〇

(ロ) 東電

工事は昭和二年二月南飯田町一番地先に於ける地支線移設工事を最初とし、それより逐次各種工事を施行し同四年八月木挽町八丁目遞信省電氣試験所構内に於ける地中線整理工事を最終とし、十七件の工



昭和四年	三三・六	八四・四七	八四・七五	九三
昭和五年	三三・六	六四・六〇	六四・六〇	七
計	三三・六	八七・〇七	九三・三三	100

(ロ) 東電

工事は昭和二年二月南飯田町一番地先に於ける地支線移設工事を最初とし、それより逐次各種工事を施行し同四年八月木挽町八丁目遞信省電気試験所構内に於ける地中線整理工事を最終とし、十七件の工事を全部完了せり、而して之に要したる整理費は五千八百三十八圓五十五錢なり、其の工事並支拂状況を示せば左の如し。

工事進捗状況

年 度	電 柱		管 線 路		其 の 他		計	歩 合 %
	數量	金 額	數量	金 額	數量	金 額		
大正十五年	1本	100円	1間	100円	1ヶ所	100円	100円	一
昭和二年	5	440.62	1	100	1	100	440.62	七
昭和三年	8	1,940.36	1	100	1	100	1,940.36	三
昭和四年	3	1,820.21	178	1,655.62	1	100	3,446.83	五
計	15	4,101.97	178	1,655.62	1	100	5,838.59	100



第二十二地區

丙 地下埋設物其他工作物整理  
支拂狀況

六九四

年	度	國 負 擔	市 負 擔	計	步 合 %
昭 和 二 年		—	一〇・七六 <sup>円</sup>	一〇・七六 <sup>円</sup>	一
昭 和 三 年		—	六九・八七	六九・八七	〇
昭 和 四 年		八三・三	二、七九・九七	三、五三・二〇	六
昭 和 五 年		—	一、六五・八二	一、六五・八二	二六
計		八三・三	五、〇一六・四三	五、八八・七五	一〇〇

第三 瓦 斯

工事は昭和三年十月築地三丁目十五番地先に於ける瓦斯管移設工事を最初とし、それより逐次各種工事を施行し、同四年十一月築地一丁目三番地先に於ける瓦斯管移設工事を最終とし、五件の工事を全部完了せり、而して之に要したる整理費は百六十五圓七十一錢なり、其の工事並支拂狀況を示せば左の如し。

工事進捗狀況

年 度	管 線 路	其 他	計	步 合 %



第二十二地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

六九五

年	昭 和 計	昭 和 計	昭 和 計	支拂 狀況	年	度		管 線 路	其 他 の 額	計	歩 合 %
						數量	金額				
昭 和 計	五 年	四 年	三 年		昭 和 計	七 〇 冊	二 〇 六	三 三 元	一 ヶ 所	四 六 元	一 〇 七 元
昭 和 計	五 年	四 年	三 年		昭 和 計	二 七 六	一 五 二 四	三 三 元	一 ヶ 所	一 六 七 元	一 〇 九 七 元
昭 和 計	五 年	四 年	三 年		昭 和 計	二 七 六	一 五 二 四	三 三 元	一 ヶ 所	一 六 七 元	一 〇 九 七 元